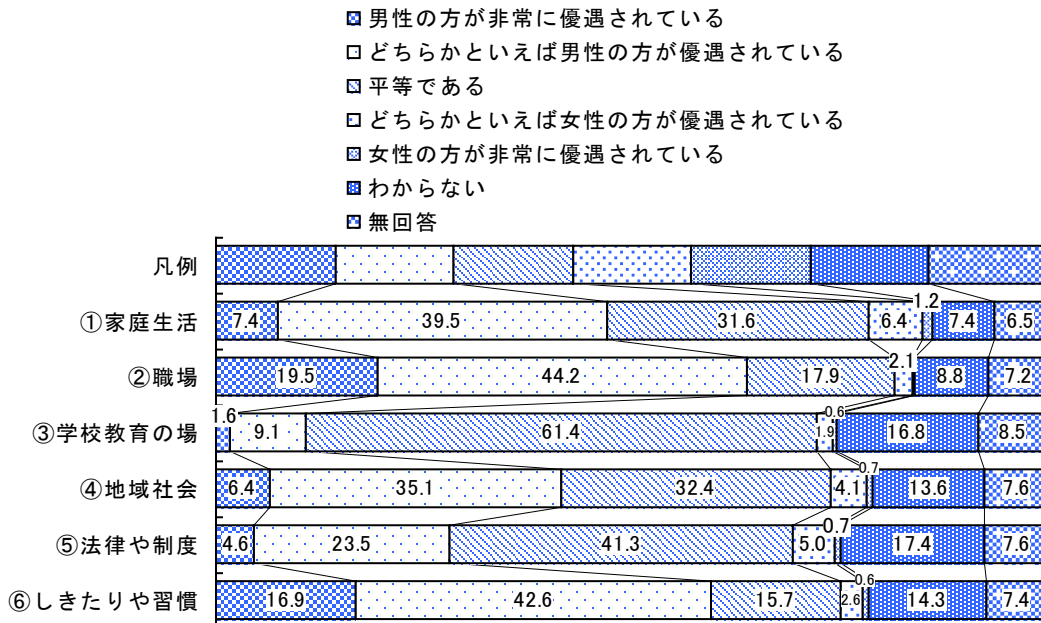


## 【2】男女共同参画に関する市民意識調査

### 1. 男女の地位の平等意識

問 44. あなたは、次の①～⑥の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
 (○印①～⑥の項目ごとに1つずつ)

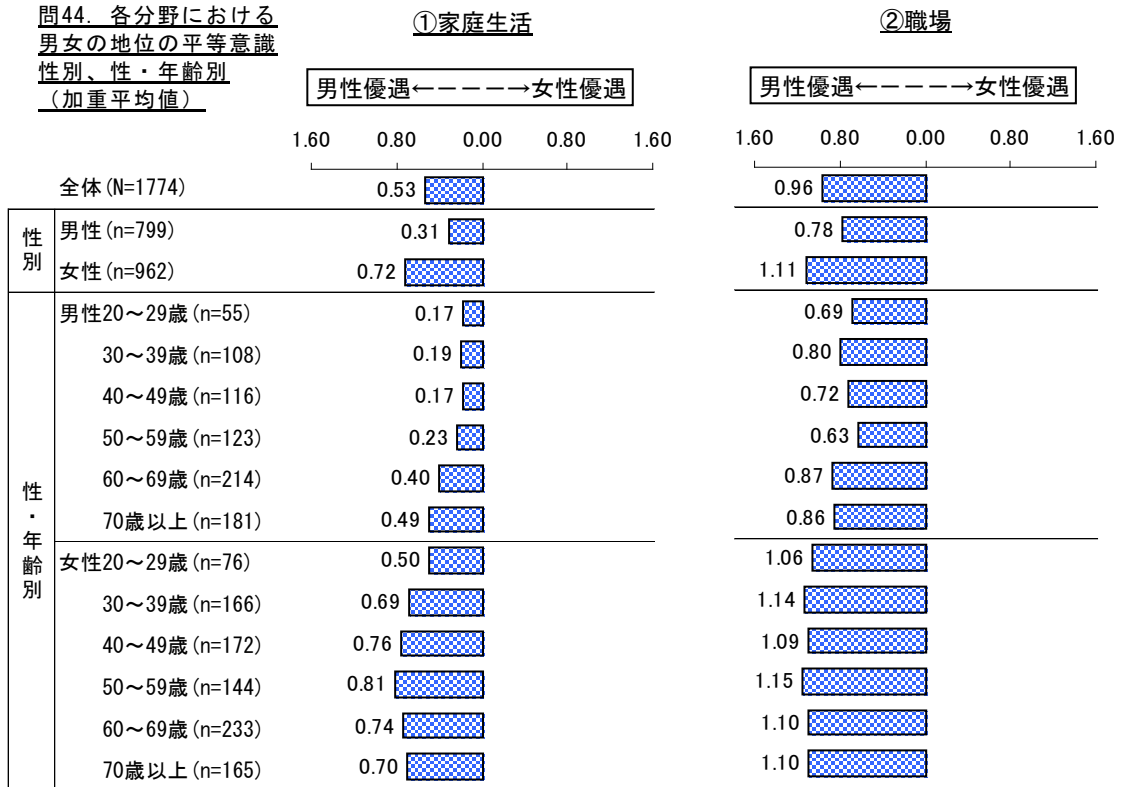
問44. 男女の地位の平等意識 (%)



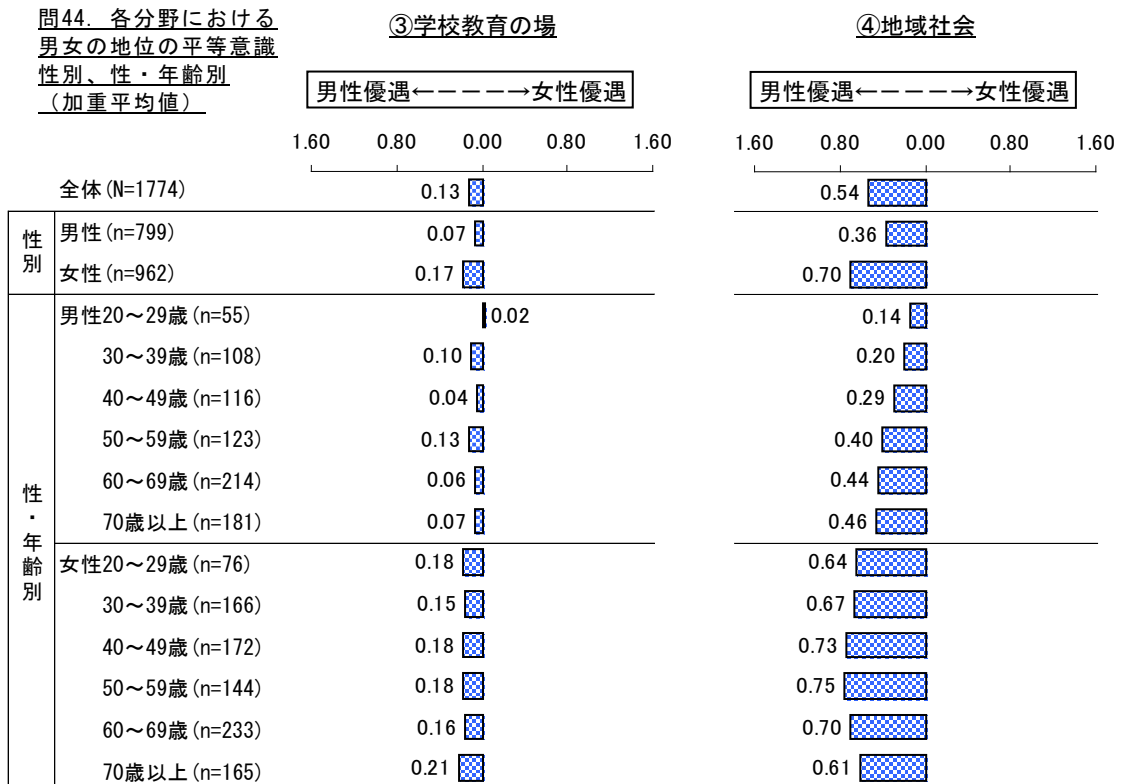
男女の地位の平等意識について、「平等である」への回答をみると、「③学校教育の場」が61.4%を占め最も多く、次いで「⑤法律や制度」(41.3%)、「④地域社会」(32.4%)、「①家庭生活」(31.6%)と続く。しかし、全体的に男性優遇意識が女性優遇意識を上回っている項目が目立ち、特に「②職場」「⑥しきたりや習慣」といった項目では「男性の方が非常に優遇されている」が多くなっている。また、「①家庭生活」で女性優遇意識が、他の項目に比べやや多くなっている。

※以下の属性別グラフの数値は「加重平均値」です。「加重平均値」とは「男性の方が非常に優遇されている」の回答件数に「-2点」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」に「-1点」、「平等である」に「0点」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」に「+1点」、「女性の方が非常に優遇されている」に「2点」のウエイトを乗じ、加重平均して算出したもので、図表中左側に近いほど「男性優遇」、右側に近いほど「女性優遇」、中心に近いほど「平等」を示す「分析用の便宜的な指標」です。

問44. 各分野における  
男女の地位の平等意識  
性別、性・年齢別  
(加重平均値)



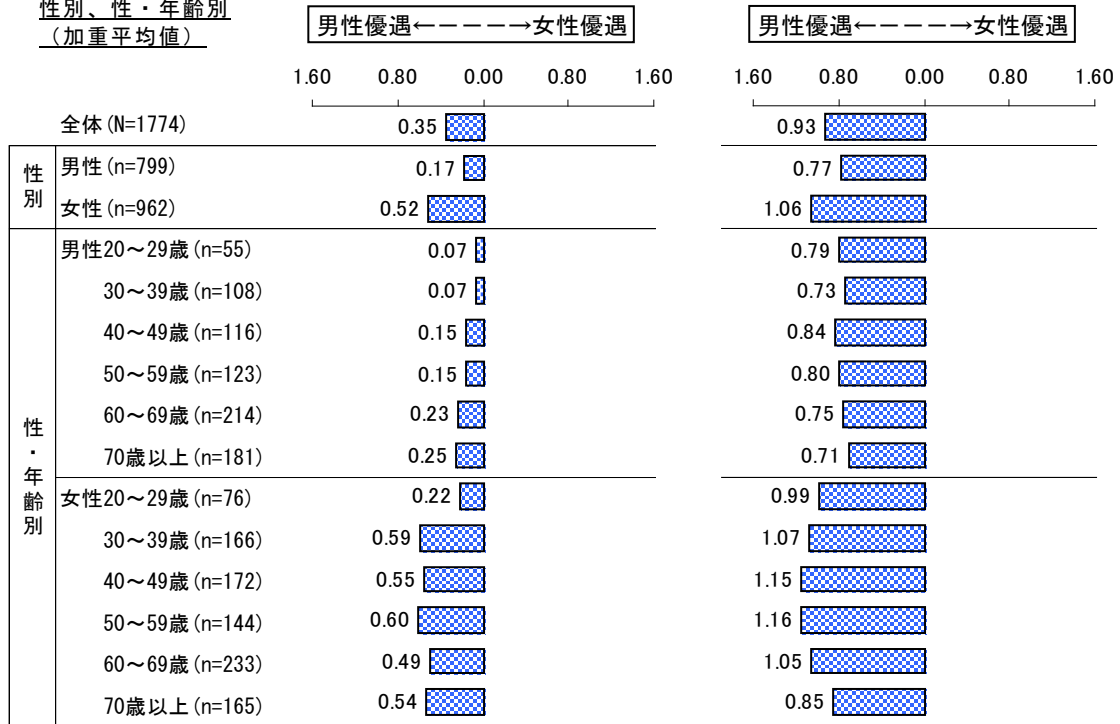
問44. 各分野における  
男女の地位の平等意識  
性別、性・年齢別  
(加重平均値)



問44. 各分野における  
男女の地位の平等意識  
性別、性・年齢別  
(加重平均値)

⑤法律や制度

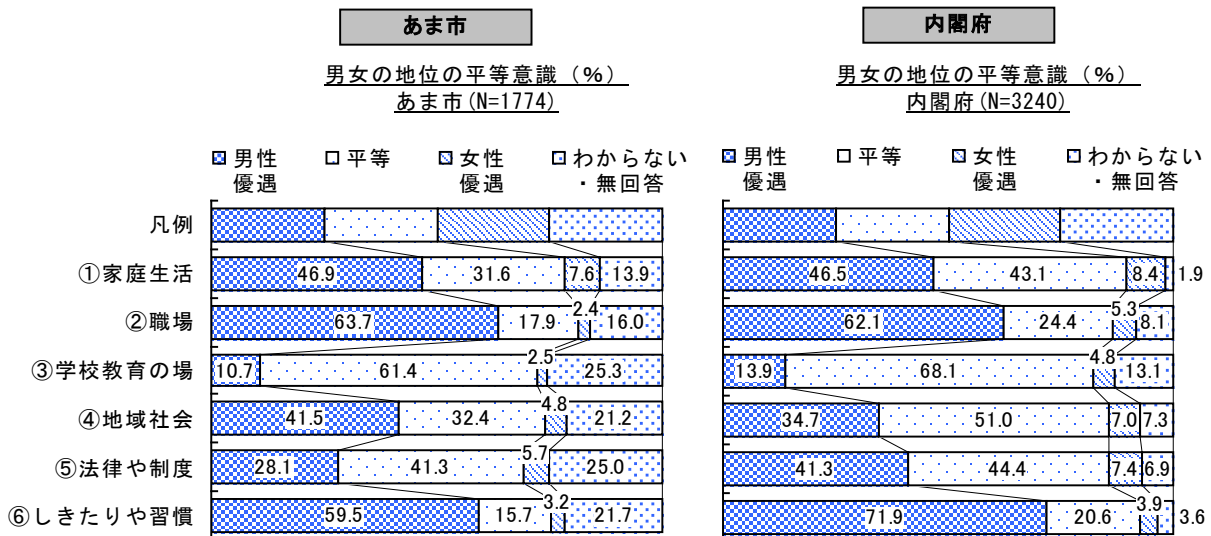
⑥しきたりや習慣



各項目を《性別》で見ると、全般的に女性の方が「男性優遇」の意識が強く、特に「②職場」「⑥しきたりや習慣」などで多くなっている。

《性・年齢別》では、女性の50歳代において「①家庭生活」「②職場」、女性の40～50歳代では「④地域社会」「⑥しきたりや習慣」などで「男性優遇」の意識が多く、また女性の30歳以上では「⑤法律や制度」において「男性優遇」の意識が多くなっている。

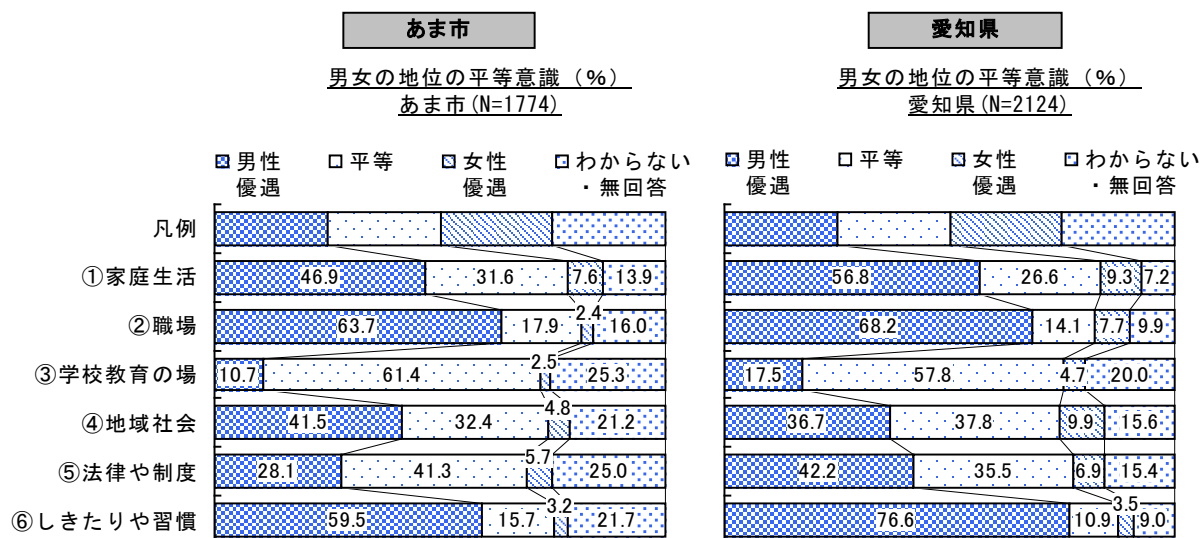
【参考／内閣府・愛知県調査との比較】



注：「男性優遇」→「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計値。  
注：「女性優遇」→「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計値。

ここでは、参考として平成 21 年（2009 年）に実施された内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」（以下「内閣府」と表記）、及び平成 20 年（2008 年）に実施された愛知県の「男女共同参画に関する調査」（以下「愛知県」と表記）との比較を示している。

内閣府との比較では、各項目で「平等」が内閣府を下回っている。また、「④地域社会」で「男性優遇」が内閣府をやや上回っている。あま市、内閣府ともに「②職場」「⑥しきたりや習慣」で「男性優遇」が多く、「③学校教育の場」で「平等」が多い点では同傾向を示している。

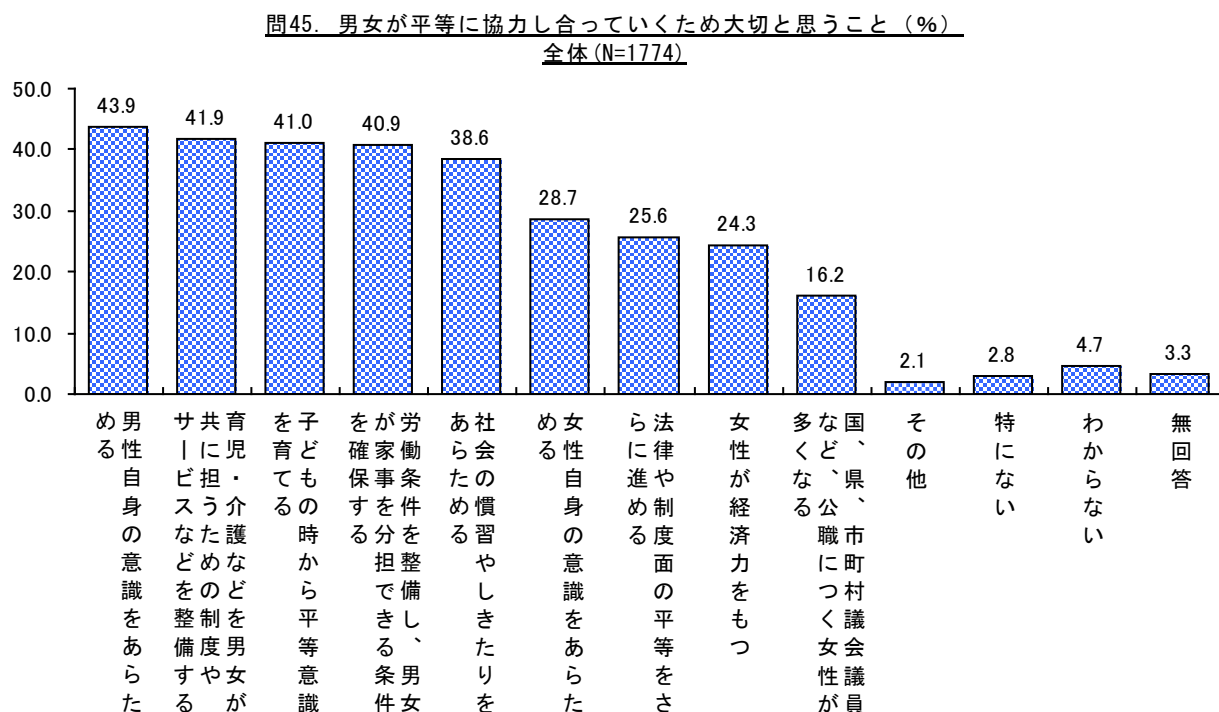


注：「男性優遇」→「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計値。  
 注：「女性優遇」→「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計値。

愛知県との比較では、「④地域社会」を除く各項目で「平等」が愛知県を上回っている。また、「④地域社会」「男性優遇」が愛知県を上回っている。あま市、愛知県ともに「②職場」「⑥しきたりや習慣」で「男性優遇」が多い点では同傾向を示している。

## 2. 男女が平等に協力し合っていくため大切と思うこと

問 45. あなたは、男女が平等な立場で協力し合っていくためには、どんなことが大切だと思いますか。(〇印いくつでも)



男女が平等に協力し合っていくため大切と思うことについては、「男性自身の意識をあらためる」が43.9%と最も多く、次いで「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」(41.9%)、「子どもの時から平等意識を育てる」(41.0%)、「労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する」(40.9%)の順となっている。

【基本属性別】

問45. 男女が平等に協力し合っていくため大切と思うこと

単位：%

	女性が経済力をもつ	女性自身の意識をあらためる	男性自身の意識をあらためる	社会の慣習やしきたりをあらためる	法律や制度面の平等をさらに進める	子どもの時から平等意識を育てる	労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する	育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する	国、県、市町村議会議員など、公職につく女性が多くなる	その他	特になし	わからない	無回答
全体(N=1774)	24.3	28.7	43.9	38.6	25.6	41.0	40.9	41.9	16.2	2.1	2.8	4.7	3.3
性別													
男性(n=799)	18.8	27.3	41.3	37.7	24.8	36.3	36.3	33.9	15.4	2.6	3.8	5.6	2.5
女性(n=962)	29.0	29.9	46.2	39.2	26.3	44.7	44.9	48.6	16.9	1.8	2.0	3.8	3.8
性・年齢別													
男性20～29歳(n=55)	25.5	25.5	41.8	38.2	18.2	41.8	50.9	41.8	12.7	7.3	1.8	5.5	0.0
30～39歳(n=108)	18.5	25.0	47.2	32.4	23.1	38.0	40.7	35.2	18.5	7.4	5.6	1.9	0.0
40～49歳(n=116)	18.1	25.0	37.1	29.3	15.5	25.9	41.4	28.4	9.5	2.6	6.0	5.2	0.0
50～59歳(n=123)	17.9	19.5	37.4	41.5	28.5	35.0	32.5	33.3	16.3	4.9	5.7	1.6	0.8
60～69歳(n=214)	17.3	31.8	45.3	41.6	29.0	36.9	33.6	37.4	15.0	0.0	1.9	7.0	3.3
70歳以上(n=181)	19.9	30.4	38.1	38.1	25.4	40.3	31.5	30.4	18.2	0.0	2.8	9.4	6.6
女性20～29歳(n=76)	30.3	40.8	55.3	44.7	32.9	51.3	53.9	55.3	26.3	2.6	2.6	1.3	1.3
30～39歳(n=166)	25.9	27.1	49.4	42.8	34.9	50.0	51.2	54.8	15.7	4.2	1.8	2.4	0.0
40～49歳(n=172)	33.1	33.7	53.5	38.4	25.0	48.8	53.5	52.3	17.4	2.3	0.0	2.3	0.6
50～59歳(n=144)	29.9	34.7	56.3	45.1	31.3	41.0	46.5	53.5	22.9	1.4	2.8	4.9	2.8
60～69歳(n=233)	32.2	26.2	37.8	38.6	22.7	42.1	39.1	45.5	13.3	0.4	2.1	4.7	5.2
70歳以上(n=165)	20.6	24.8	34.5	29.7	17.0	38.8	33.3	36.4	12.7	0.6	3.0	6.1	11.5

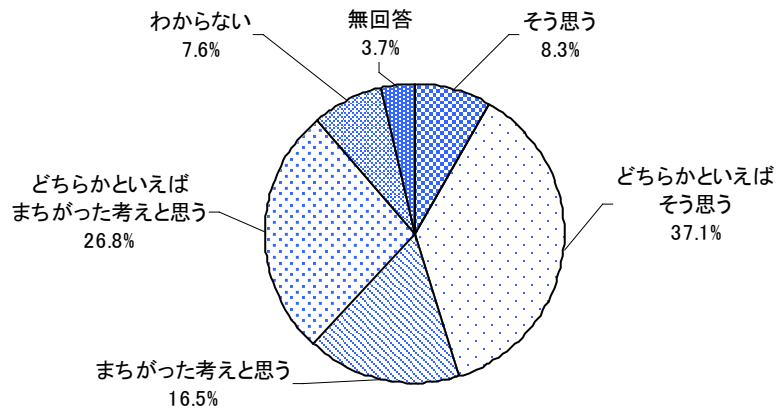
《性別》で見ると、男性に比べ女性で「女性が経済力をもつ」「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」が多くなっている。

《性・年齢別》では、男性は20歳代で「労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する」、女性20歳代で「女性自身の意識をあらためる」が他の年齢層に比べ多くなっている。

3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

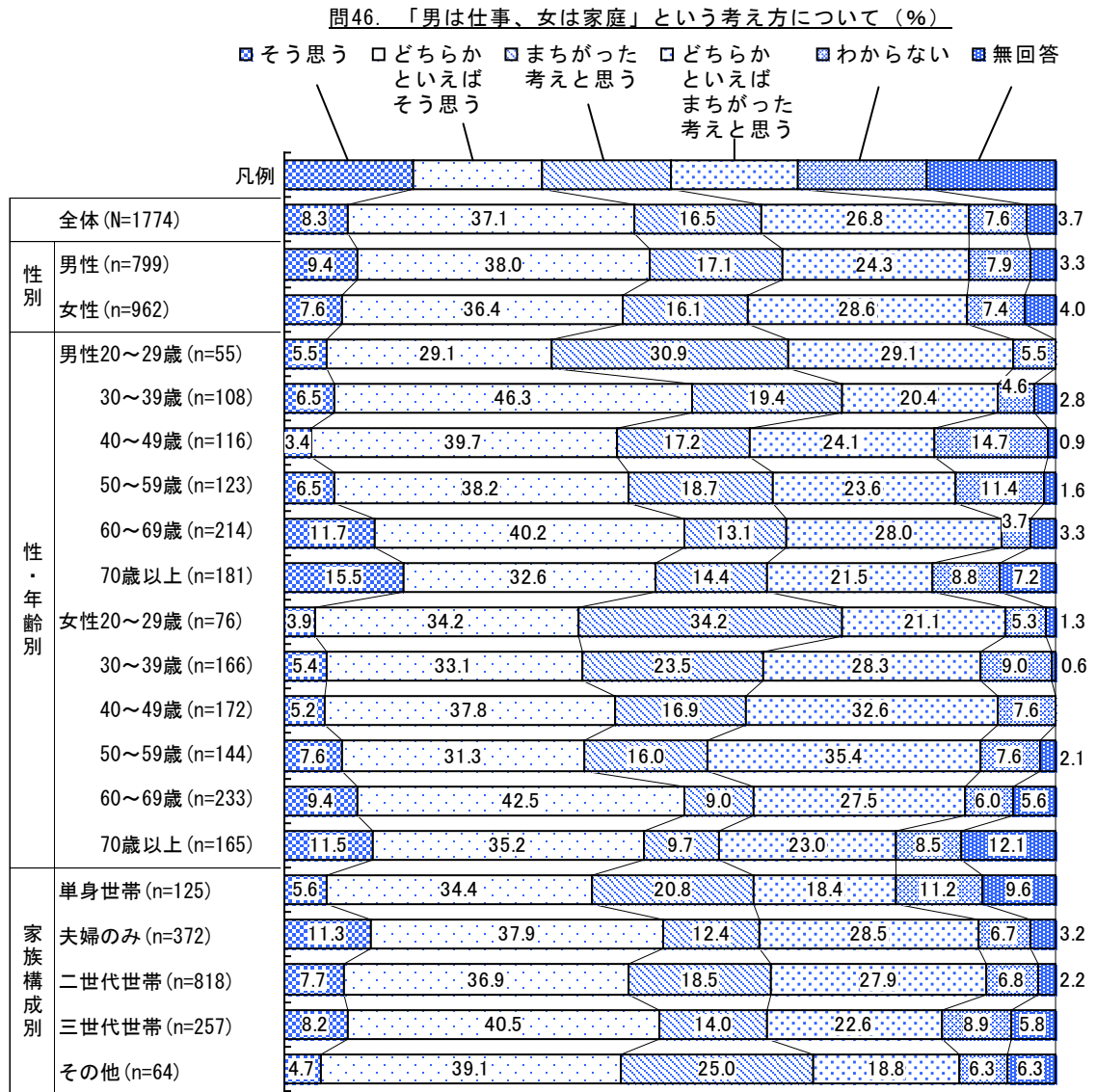
問 46. あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。  
(○印1つ)

問46. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について (%)  
全体 (N=1774)



「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「そう思う」が 8.3%、「どちらかといえばそう思う」が 37.1%、合計 45.4%が賛同している。一方、「まちがった考えと思う」は 16.5%、「どちらかといえばまちがった考えと思う」が 26.8%、合計すると 43.3%が否定的であり、賛同意識がやや上回っている。

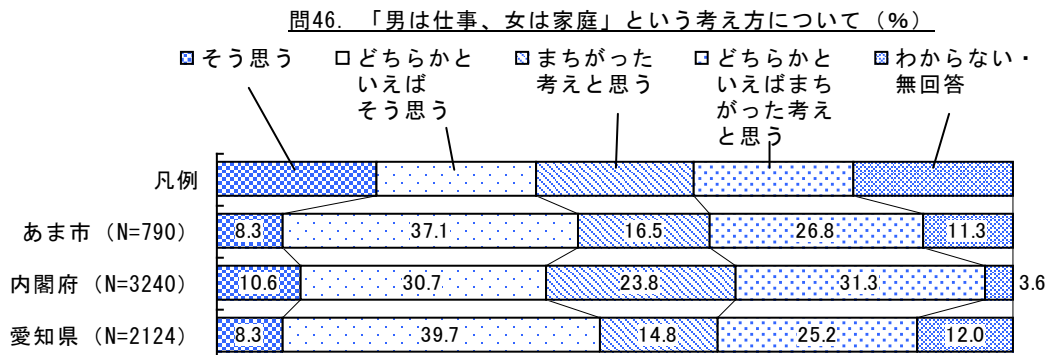
【基本属性別】



《性別》では、女性に比べ男性で賛同意識がやや多く、《性・年齢別》では、男性の30歳代、60歳代、及び女性の60歳代において賛同意識が過半数を占め、多くみられる。一方、男性は20歳代、女性は20歳代、30歳代、50歳代で否定的意識が過半数を占めている。

《家族構成別》では、「夫婦のみ」「三世帯世帯」で賛同意識が他の層に比べやや多くなっている。

【参考／内閣府・愛知県調査との比較】



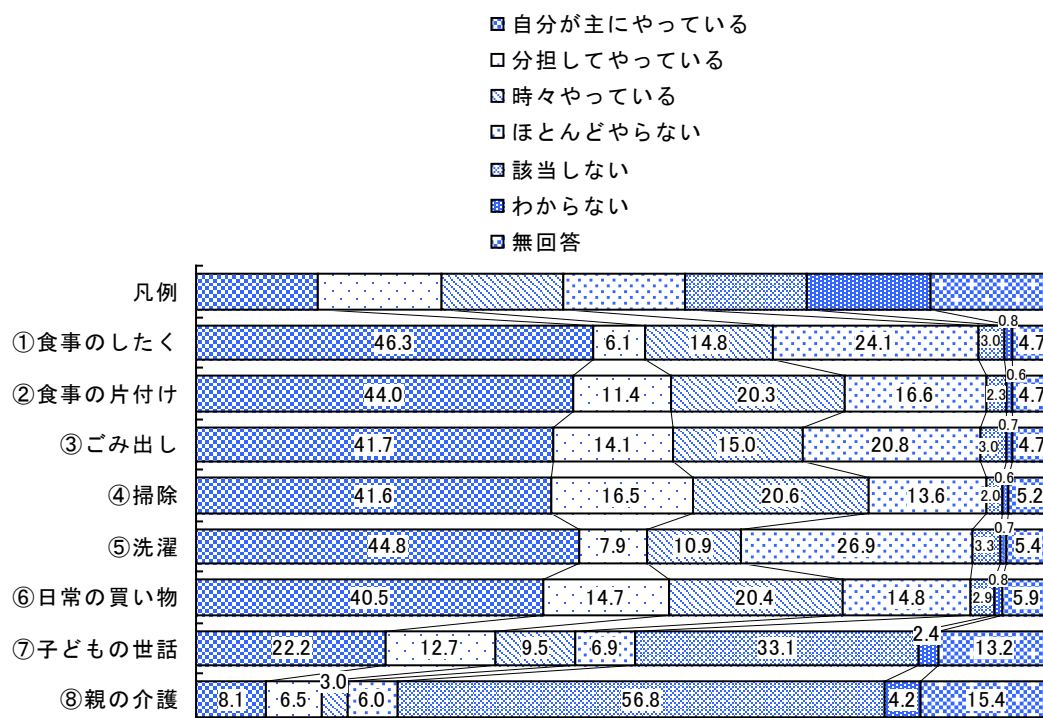
内閣府との比較では、あま市は賛同意識がやや多いが、愛知県との比較ではほぼ同傾向にある。



#### 4. 日常的な仕事

問 47. 次にあげる①～⑧の日常的な仕事は、どの程度やっていますか。  
 (○印①～⑧の項目ごとに1つずつ)

問47. 日常的な仕事 (%)

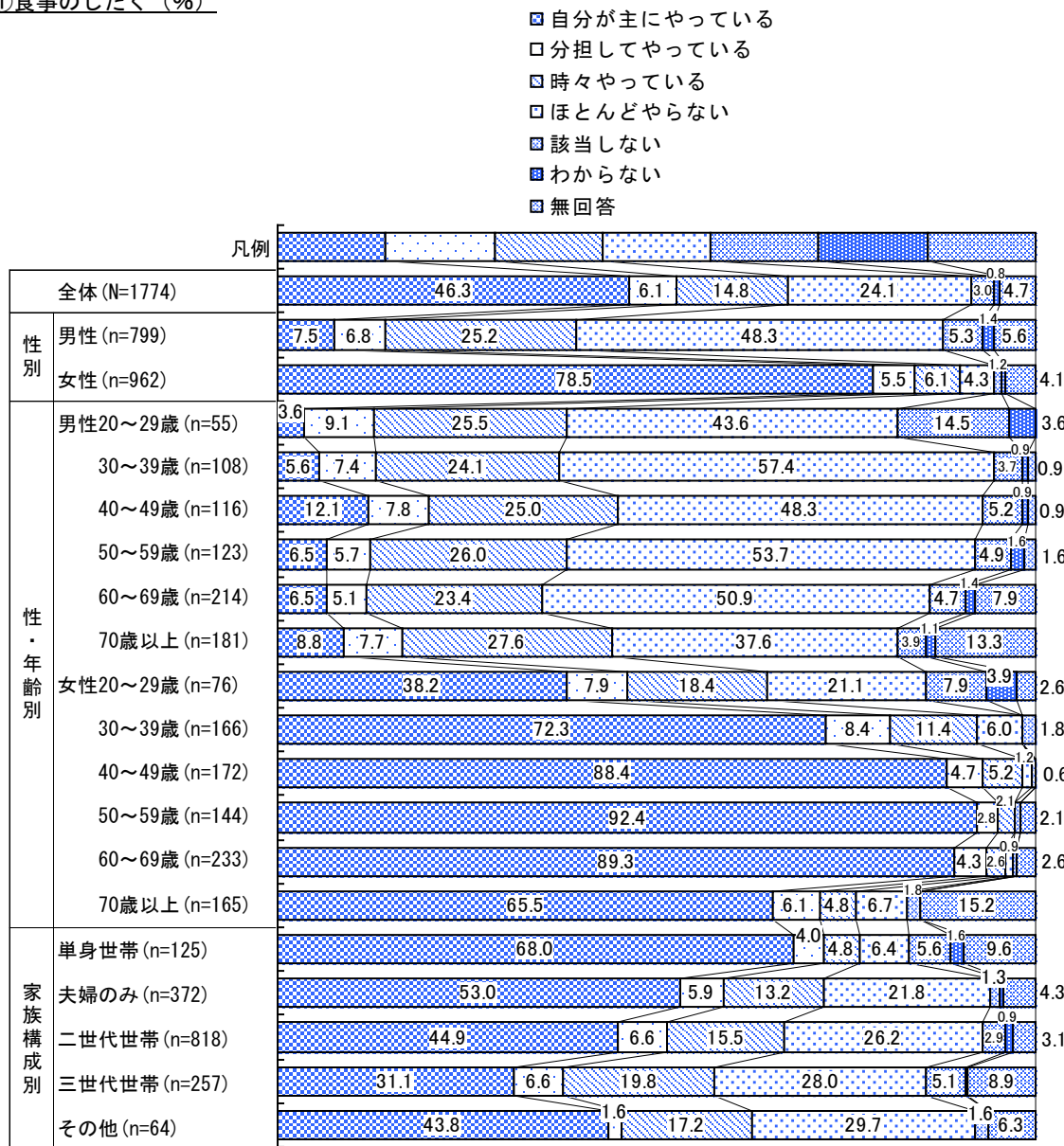


日常的な仕事についてみると、「①食事のしたく」「②食事の片付け」「③ごみ出し」「④掃除」「⑤洗濯」「⑥日常の買い物」で「自分が主にやっている」が 4 割を超えている。また、「①食事のしたく」「③ごみ出し」「⑤洗濯」で「ほとんどやらない」が多く、2 割を超えている。

(1) 食事のしたく

【基本属性別】

①食事のしたく (%)



「食事のしたく」では、「自分が主にやっている」が 46.3%と最も多く、次いで「ほとんどやらない」(24.1%)、「時々やっている」(14.8%)、「分担してやっている」(6.1%)の順となっている。

《性別》でみると、男性は「時々やっている」「ほとんどやらない」が女性に比べ多くなっている。一方、女性は「自分が主にやっている」が多く、男性を大きく上回っている。

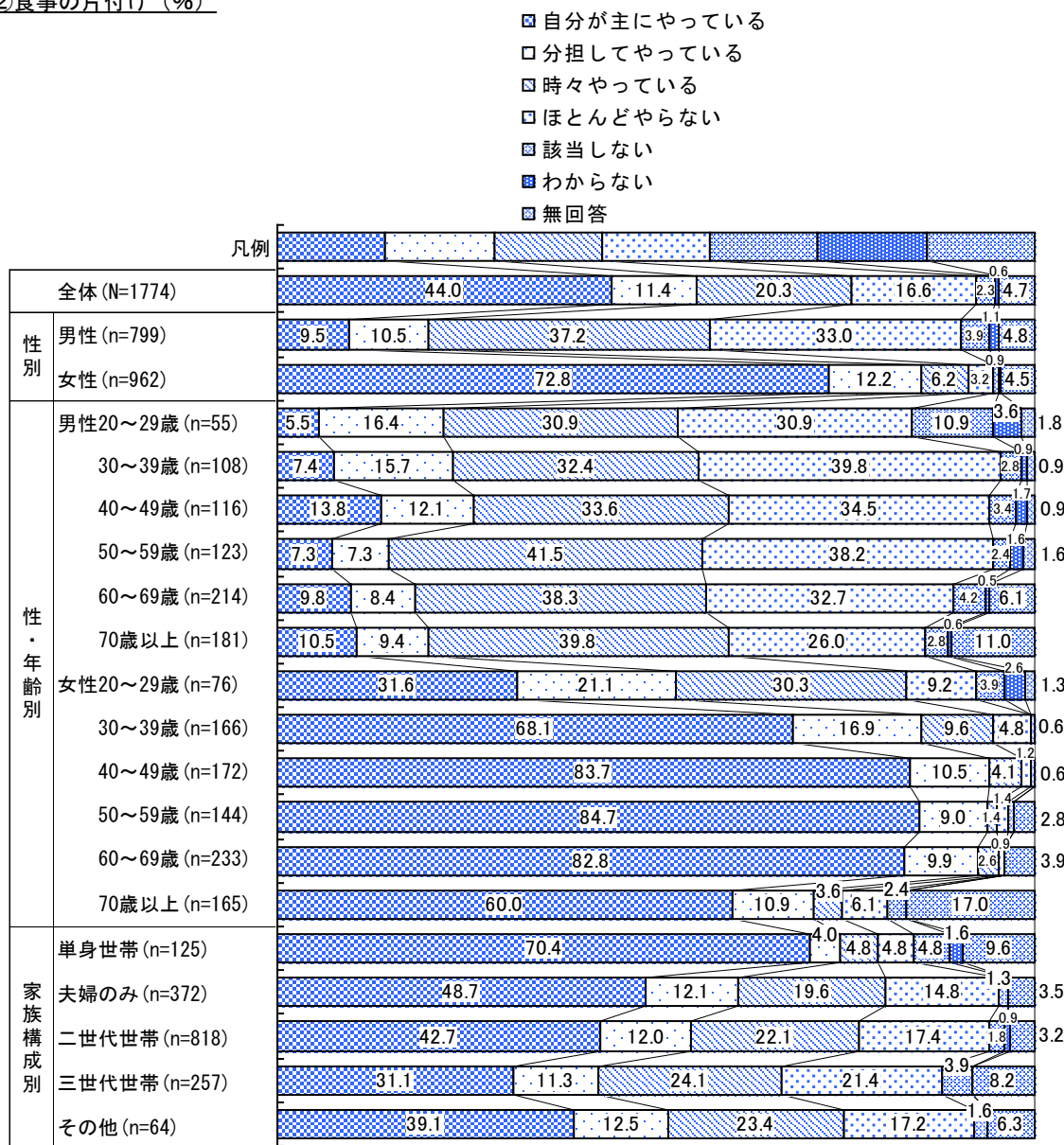
《性・年齢別》では、男性は30歳代及び50歳代、60歳代で「ほとんどやらない」が過半数を占めている。女性は20歳代、70歳以上を除く各年齢層で「自分が主にやっている」が7割を超えているが、20歳代では「ほとんどやらない」が約2割を占め、他の年齢層に比べ多くなっている。

《家族構成別》では、「単身世帯」で「自分が主にやっている」が6割を超え、他の層に比べ多くなっている。また、「三世帯世帯」で「時々やっている」が他の層に比べやや多くなっている。

## (2) 食事の片付け

### 【基本属性別】

#### ②食事の片付け (%)



「食事の片付け」では、「自分が主にやっている」が44.0%と最も多く、次いで「時々やっている」(20.3%)、「ほとんどやらない」(16.6%)、「分担してやっている」(11.4%)の順となっている。

《性別》でみると、男性は「時々やっている」「ほとんどやらない」が女性に比べ多くなっている。一方、女性は「自分が主にやっている」が多く、男性を大きく上回っている。

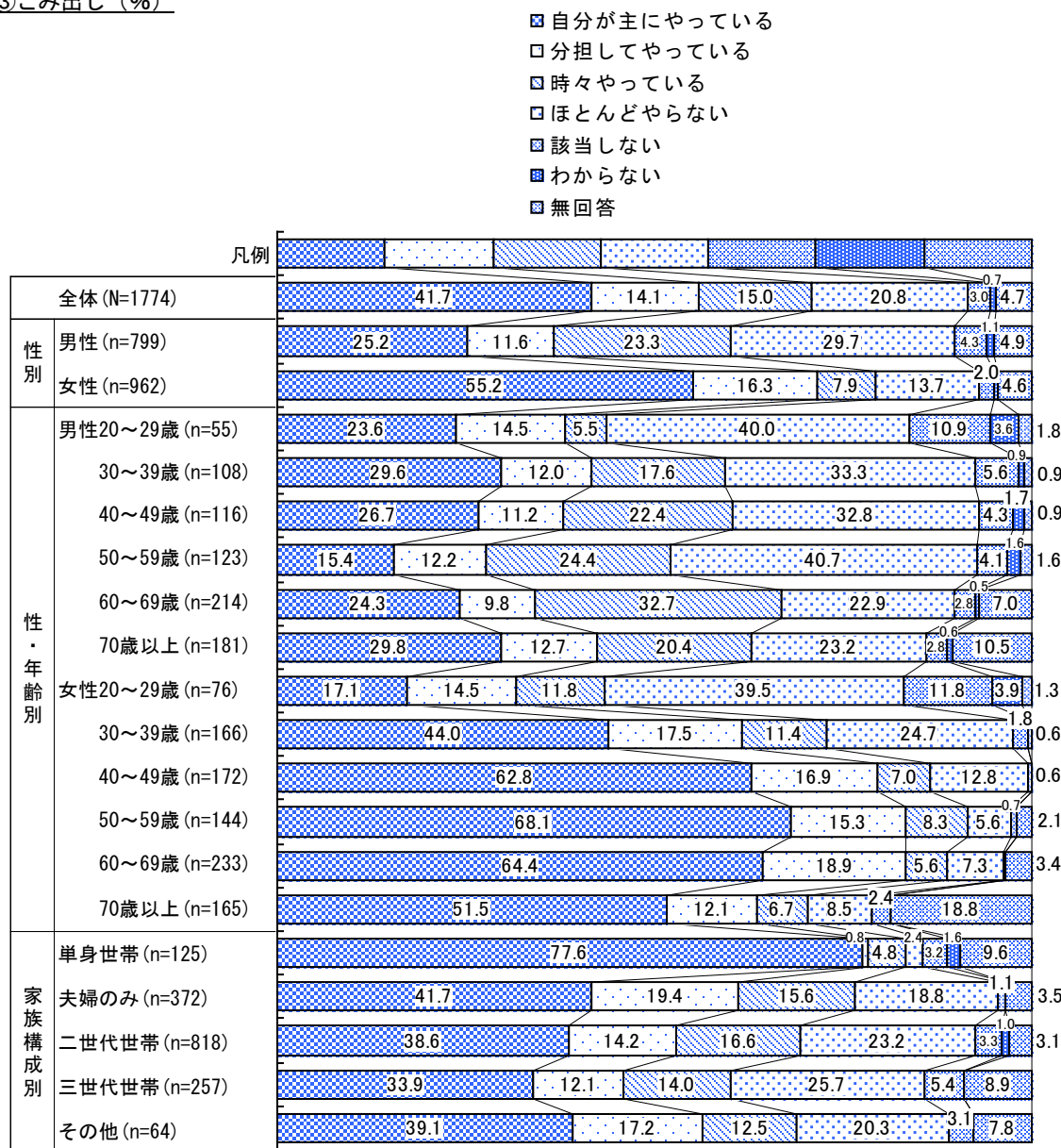
《性・年齢別》では、男性40歳代で「自分が主にやっている」が他の層に比べやや多くなっている。女性は30歳以上の各年齢層で「自分が主にやっている」が6割以上を占めているが、女性20歳代は「時々やっている」が約3割を占め、他の年齢層に比べ多くなっている。

《家族構成別》では、「単身世帯」で「自分が主にやっている」が約7割を占め、他の層に比べ多くなっている。また、「三世帯世帯」で「ほとんどやらない」が他の層に比べやや多くなっている。

(3) ごみ出し

【基本属性別】

③ごみ出し (%)



「ごみ出し」では、「自分が主にやっている」が 41.7%と最も多く、次いで「ほとんどやらない」(20.8%)、「時々やっている」(15.0%)、「分担してやっている」(14.1%)の順となっている。

《性別》でみると、男性は「時々やっている」「ほとんどやらない」が女性に比べ多くなっている。一方、女性は「自分が主にやっている」が多く、男性を大きく上回っている。

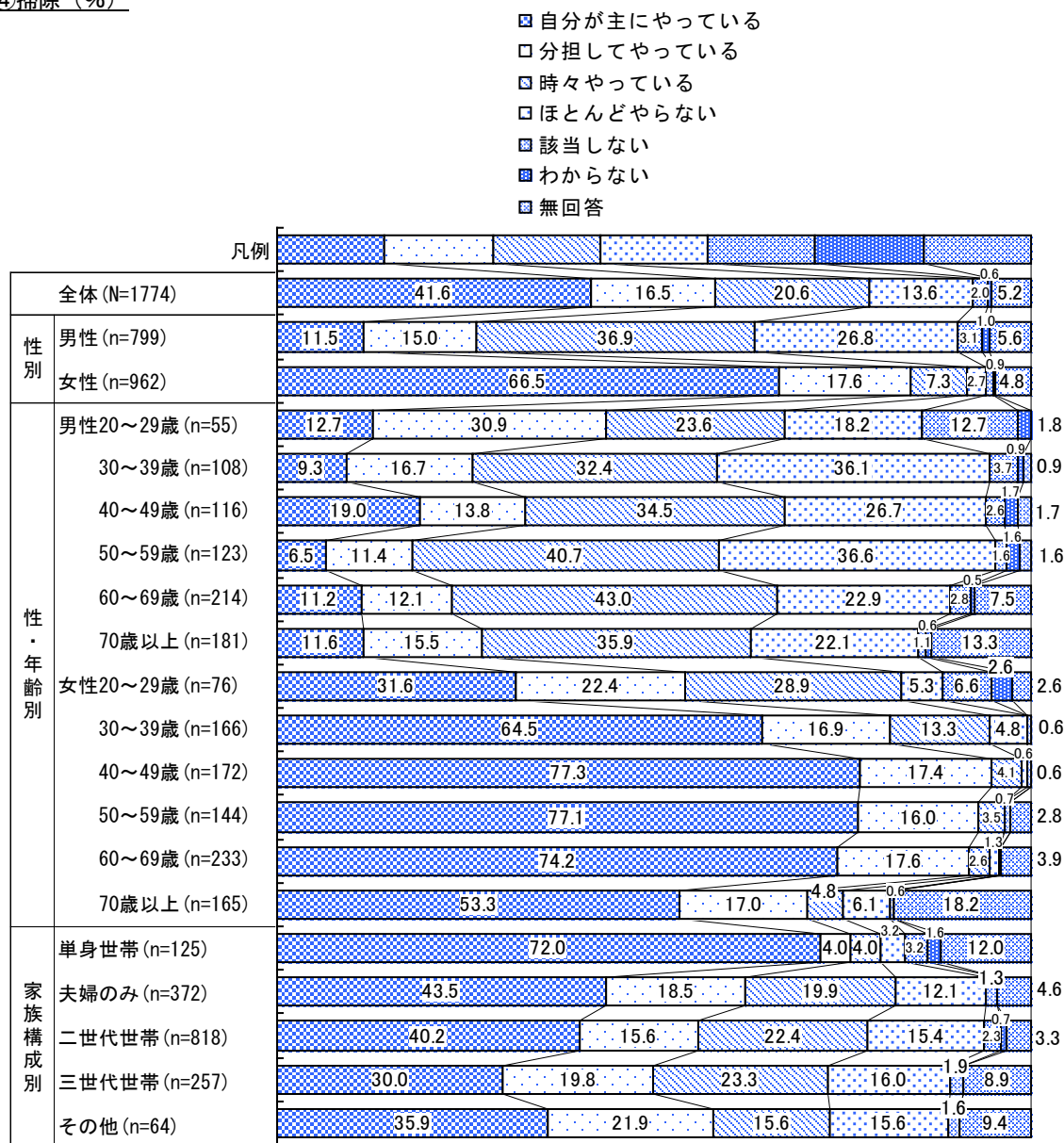
《性・年齢別》では、男性 20 歳代及び 50 歳代で「ほとんどやらない」が約 4 割を占め他の層に比べやや多くなっている。女性は 40 歳以上の各年齢層で「自分が主にやっている」が過半数を占めているが、女性 20 歳代は「ほとんどやらない」が約 4 割を占め、他の年齢層に比べ多くなっている。

《家族構成別》では、「単身世帯」で「自分が主にやっている」が 7 割を超え、他の層に比べ多くなっている。また、「夫婦のみ」で「分担してやっている」が他の層に比べやや多くなっている。

(4) 掃除

【基本属性別】

④掃除 (%)



「掃除」では、「自分が主にやっている」が41.6%と最も多く、次いで「時々やっている」(20.6%)、「分担してやっている」(16.5%)、「ほとんどやらない」(13.6%)の順となっている。

《性別》でみると、男性は「時々やっている」「ほとんどやらない」が女性に比べ多くなっている。一方、女性は「自分が主にやっている」が多く、男性を大きく上回っている。

《性・年齢別》では、男性20歳代で「分担してやっている」が約3割を占め他の層に比べ多くなっている。女性は30歳以上の各年齢層で「自分が主にやっている」が過半数を占めているが、女性20歳代は「時々やっている」が約3割を占め、他の年齢層に比べ多くなっている。

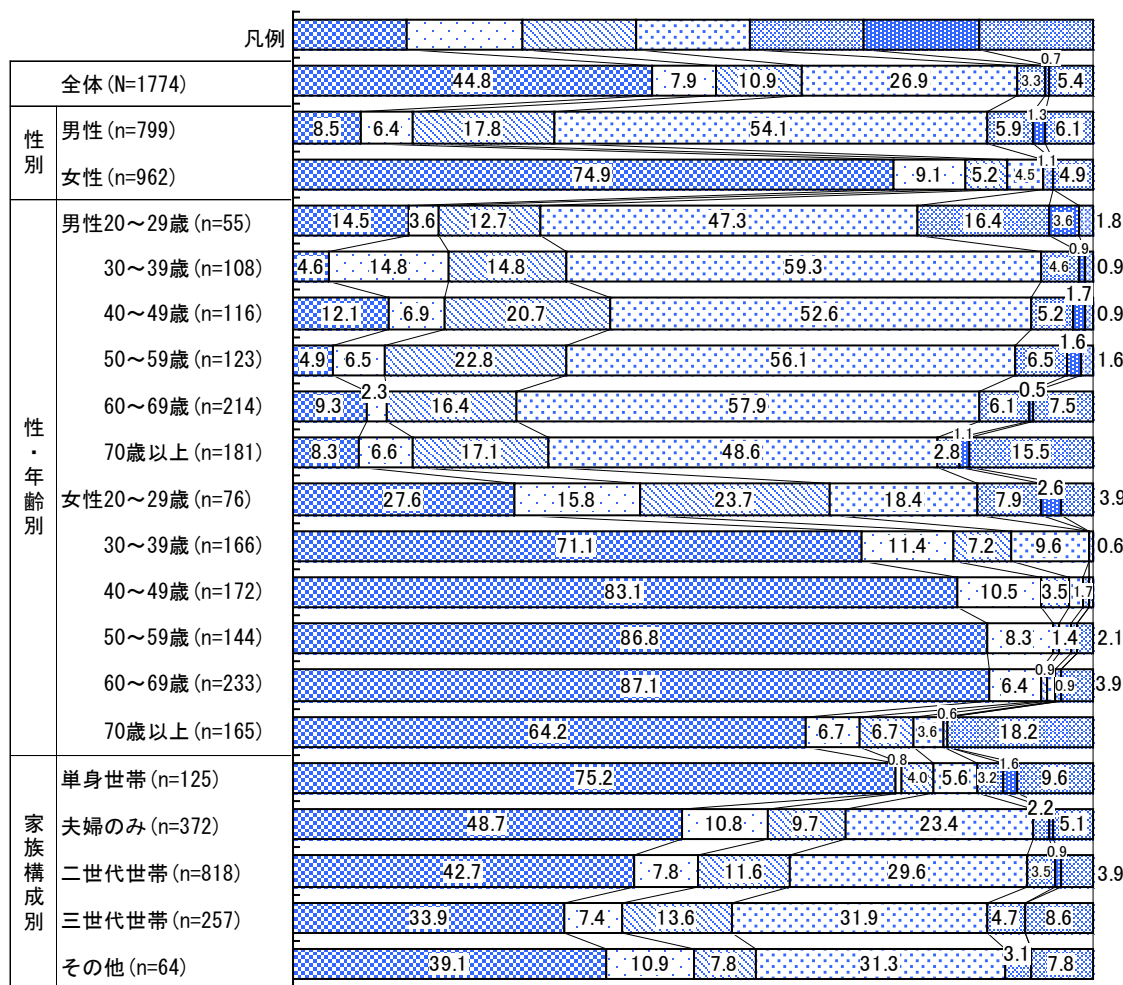
《家族構成別》では、「単身世帯」で「自分が主にやっている」が約7割を超え、他の層に比べ多くなっている。また、「二世帯世帯」「三世帯世帯」で「時々やっている」が他の層に比べやや多くなっている。

(5) 洗濯

【基本属性別】

⑤洗濯 (%)

- 自分が主にやっている
- 分担してやっている
- ▨ 時々やっている
- ほとんどやらない
- 該当しない
- わからない
- 無回答



「洗濯」では、「自分が主にやっている」が44.8%と最も多く、次いで「ほとんどやらない」(26.9%)、「時々やっている」(10.9%)、「分担してやっている」(7.9%)の順となっている。

《性別》でみると、男性は「時々やっている」「ほとんどやらない」が女性に比べ多くなっている。一方、女性は「自分が主にやっている」が多く、男性を大きく上回っている。

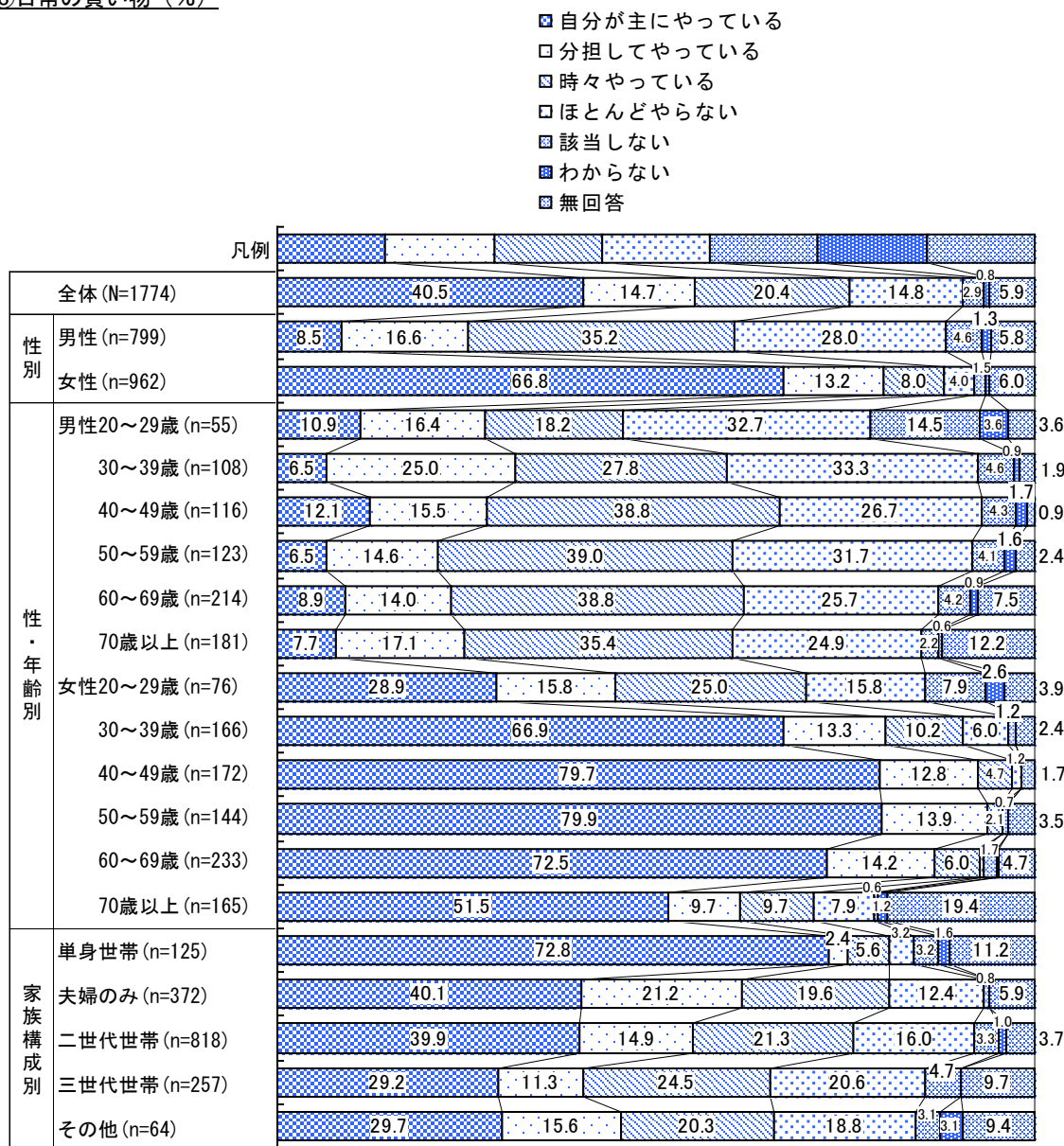
《性・年齢別》では、男性50歳代で「時々やっている」が他の年齢層に比べやや多くなっている。女性は30歳以上の各年齢層で「自分が主にやっている」が6割を超えているが、女性20歳代は「時々やっている」「ほとんどやらない」が他の年齢層に比べ多くなっている。

《家族構成別》では、「単身世帯」で「自分が主にやっている」が約7割を超え、他の層に比べ多くなっている。また、「二世帯世帯」「三世帯世帯」で「ほとんどやらない」が他の層に比べやや多くなっている。

(6) 日常の買い物

【基本属性別】

⑥日常の買い物 (%)



「日常の買い物」では、「自分が主にやっている」が40.5%と最も多く、次いで「時々やっている」(20.4%)、「ほとんどやらない」(14.8%)、「分担してやっている」(14.7%)の順となっている。

《性別》でみると、男性は「時々やっている」「ほとんどやらない」が女性に比べ多くなっている。一方、女性は「自分が主にやっている」が多く、男性を大きく上回っている。

《性・年齢別》では、男性30歳代で「分担してやっている」が他の年齢層に比べやや多くなっている。女性は30歳以上の各年齢層で「自分が主にやっている」が過半数を占めているが、女性20歳代は「時々やっている」「ほとんどやらない」が他の年齢層に比べ多くなっている。

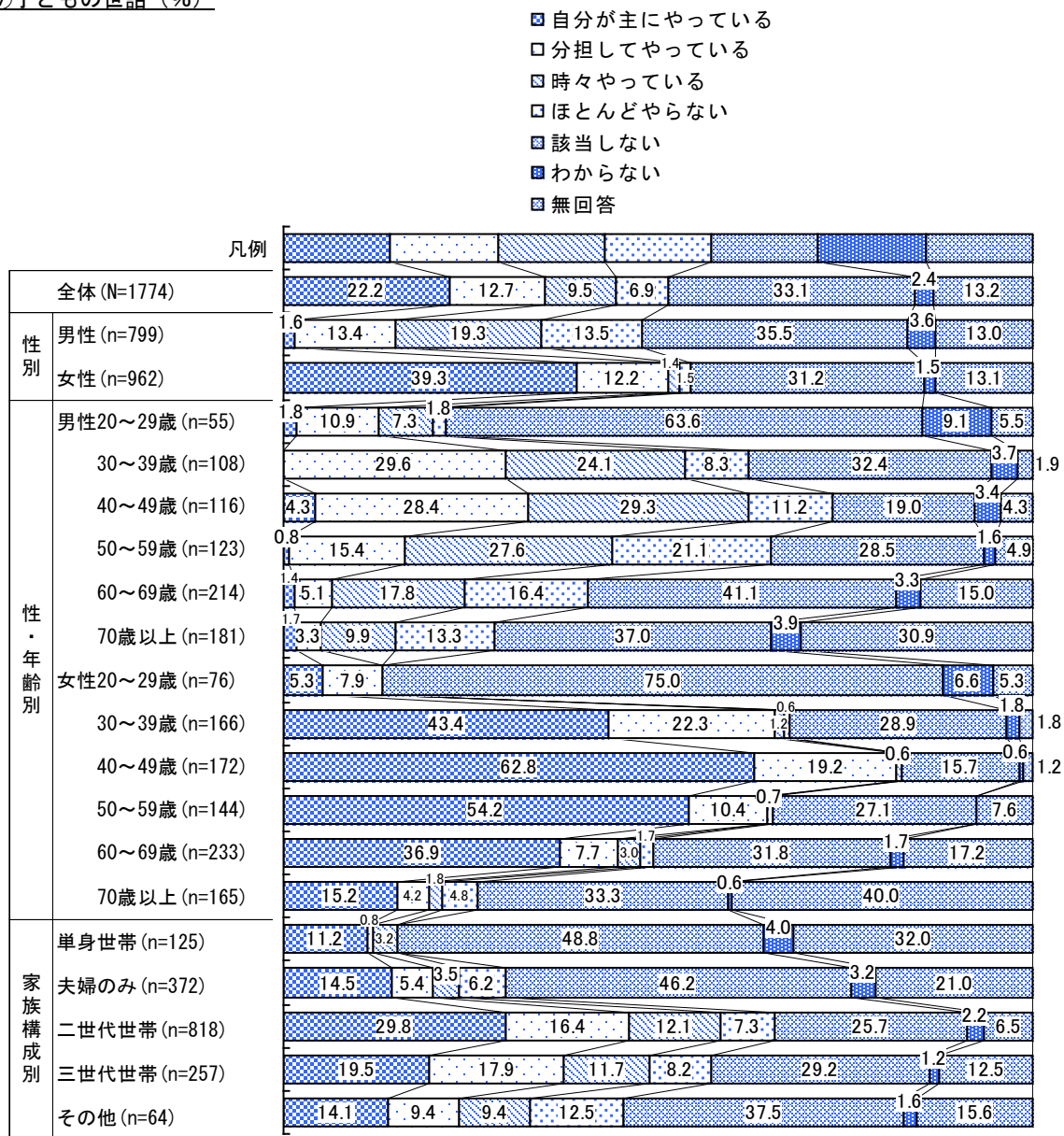
《家族構成別》では、「単身世帯」で「自分が主にやっている」が約7割を超え、他の層に比べ多くなっている。また、「夫婦のみ」で「分担してやっている」が他の層に比べやや多くなっている。



(7) 子どもの世話

【基本属性別】

⑦子どもの世話 (%)



「子どもの世話」では、「該当しない」が33.1%と最も多く、次いで「自分が主にやっている」(22.2%)、「分担してやっている」(12.7%)の順となっている。

《性別》でみると、男性は「時々やっている」「ほとんどやらない」が女性に比べて多くなっている。一方、女性は「自分が主にやっている」が多く、男性を大きく上回っている。

《性・年齢別》では、男性30歳代及び40歳代で「分担してやっている」が約3割を占め、他の年齢層に比べて多くなっている。女性は40歳代で「自分が主にやっている」が6割を超え、他の年齢層に比べて多くなっている。

《家族構成別》では、「二世帯世帯」で「自分が主にやっている」が約3割を占め、他の層に比べて多くなっている。

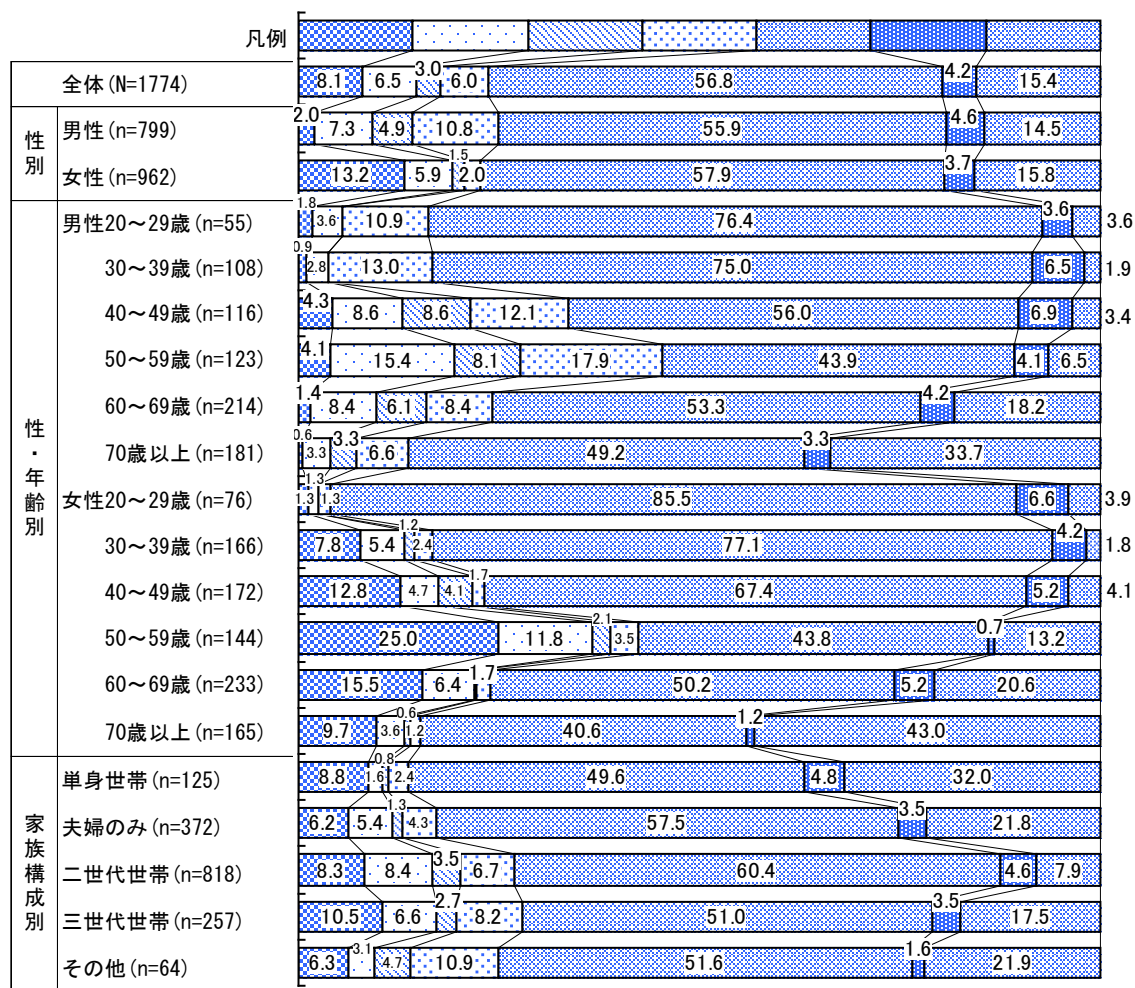


(8) 親の介護

【基本属性別】

⑧親の介護 (%)

- 自分が主にやっている
- 分担してやっている
- 時々やっている
- ほとんどやらない
- 該当しない
- わからない
- 無回答



「親の介護」では、「該当しない」が 56.8%と最も多く、次いで「無回答」を除くと「自分が主にやっている」(8.1%)、「分担してやっている」(6.5%)、「ほとんどやらない」(6.0%)の順となっている。

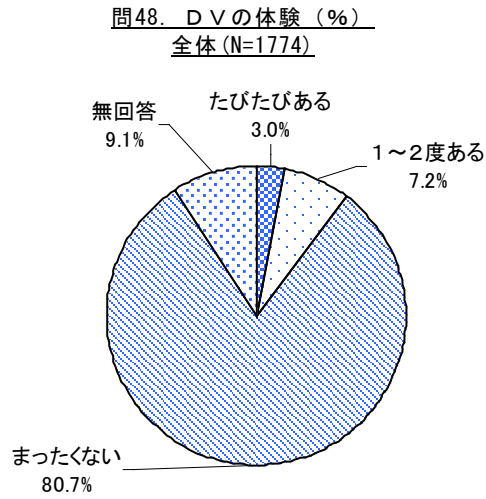
《性別》で見ると、男性は「ほとんどやらない」が女性に比べ多く、女性は「自分が主にやっている」が男性に比べ多くなっている。

《性・年齢別》では、男性 50 歳代で「分担してやっている」が他の年齢層に比べやや多く、女性は 50 歳代で「自分が主にやっている」他の年齢層に比べ多くなっている。

《家族構成別》では、「三世帯世帯」で「自分が主にやっている」が他の層に比べやや多くなっている。

5. DV（ドメスティック・バイオレンス）の体験

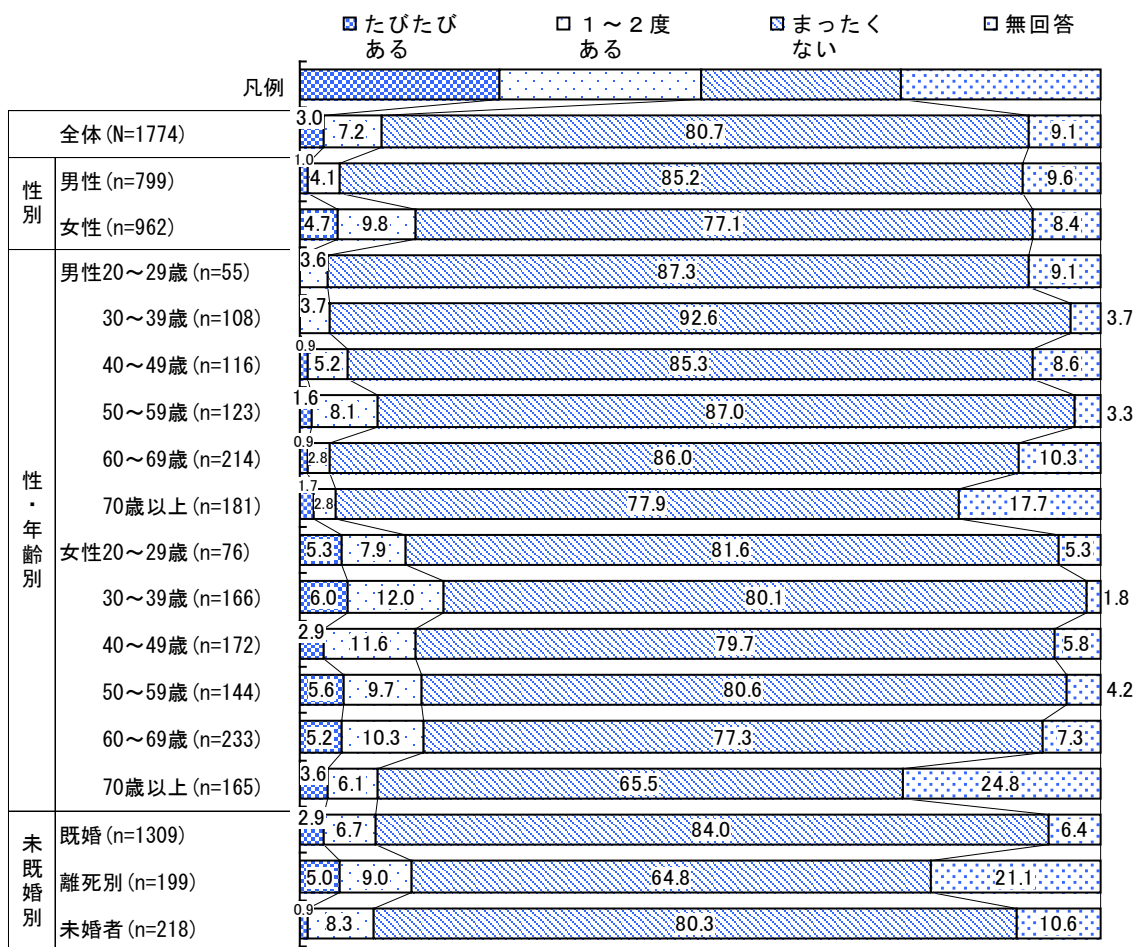
問 48. あなたはこれまでに、DV（ドメスティック・バイオレンス）を受けたことがありますか。  
（○印1つ）



DV（ドメスティック・バイオレンス）の体験については、「たびたびある」が 3.0%、「1～2度ある」が 7.2%、合計 10.2%で、約 1 割がDVを受けた体験がある。

【基本属性別】

問48. DVの体験 (%)

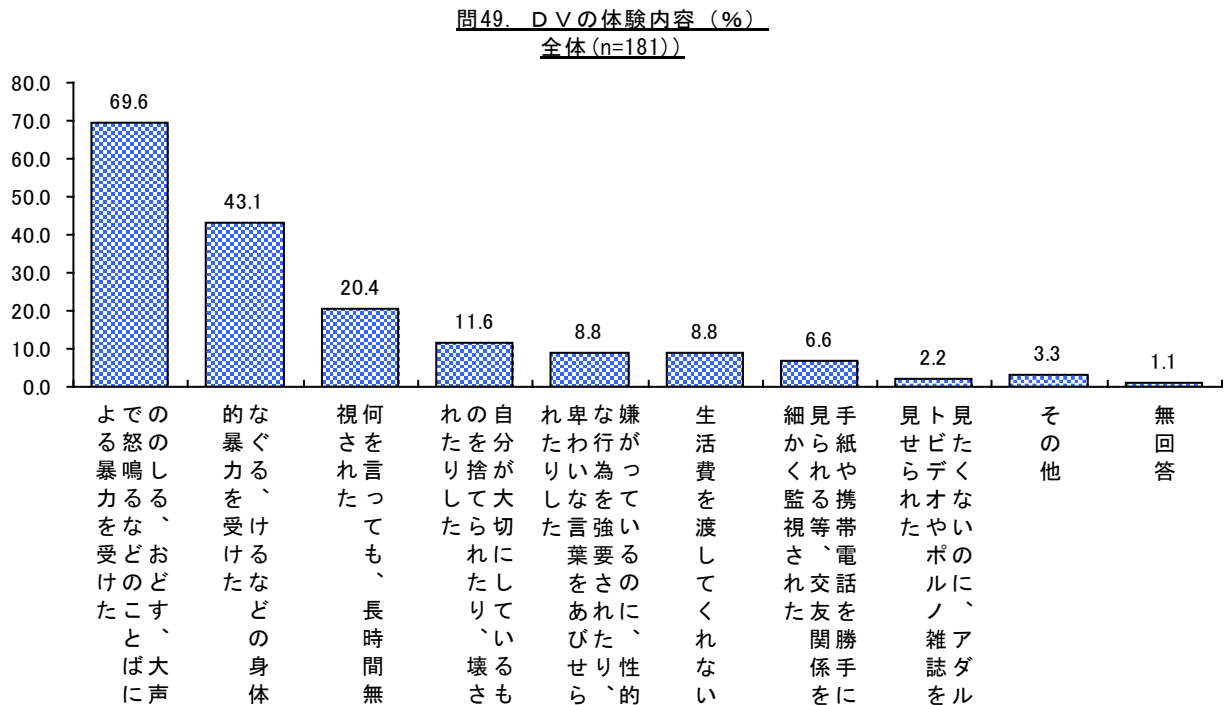


《性別》では、男性に比べ女性でDVを受けた経験が多く、《性・年齢別》では、男性は50歳代、女性は30歳代でDVを受けた経験が他の年齢層に比べやや多くなっている。

《未既婚別》では、「離死別」でDVを受けた経験が他の層に比べやや多くなっている。

6. DV（ドメスティック・バイオレンス）の体験内容

問 49.（問 48 で「1. たびたびある」「2. 1～2度ある」と回答した方に）どのようなDV（ドメスティック・バイオレンス）を受けましたか。（○印いくつでも）



DV（ドメスティック・バイオレンス）の体験内容については、「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」が 69.6%と最も多く、次いで「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」（43.1%）、「何を言っても、長時間無視された」（20.4%）の順となっている。

【基本属性別】

問49. DVの体験内容

単位:%

		をなぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	嫌がっているのに、性的な行為をや波尔ノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	その他	無回答	
全体(n=181)		43.1	69.6	20.4	6.6	8.8	2.2	8.8	11.6	3.3	1.1	
性別	男性(n=41)	34.1	58.5	34.1	4.9	0.0	0.0	0.0	2.4	4.9	0.0	
	女性(n=139)	46.0	73.4	15.8	7.2	11.5	2.9	11.5	14.4	2.9	1.4	
性・年齢別	男性20～29歳(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30～39歳(n=4)	50.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	
	40～49歳(n=7)	42.9	85.7	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	
	50～59歳(n=12)	41.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	
	60～69歳(n=8)	37.5	50.0	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	70歳以上(n=8)	0.0	75.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	女性20～29歳(n=10)	60.0	60.0	20.0	30.0	10.0	10.0	20.0	20.0	0.0	0.0	
	30～39歳(n=30)	53.3	86.7	16.7	6.7	16.7	0.0	16.7	20.0	0.0	3.3	
	40～49歳(n=25)	52.0	68.0	8.0	8.0	12.0	4.0	8.0	12.0	8.0	4.0	
	50～59歳(n=22)	45.5	68.2	13.6	4.5	9.1	4.5	13.6	13.6	0.0	0.0	
	60～69歳(n=36)	36.1	72.2	19.4	5.6	13.9	2.8	8.3	13.9	2.8	0.0	
	70歳以上(n=16)	37.5	75.0	18.8	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	6.3	0.0	
	未既婚別	既婚(n=126)	38.1	73.8	19.0	6.3	7.9	1.6	5.6	10.3	2.4	1.6
		離死別(n=28)	64.3	60.7	25.0	3.6	17.9	7.1	17.9	7.1	3.6	0.0
未婚者(n=20)		50.0	60.0	25.0	10.0	5.0	0.0	10.0	25.0	5.0	0.0	

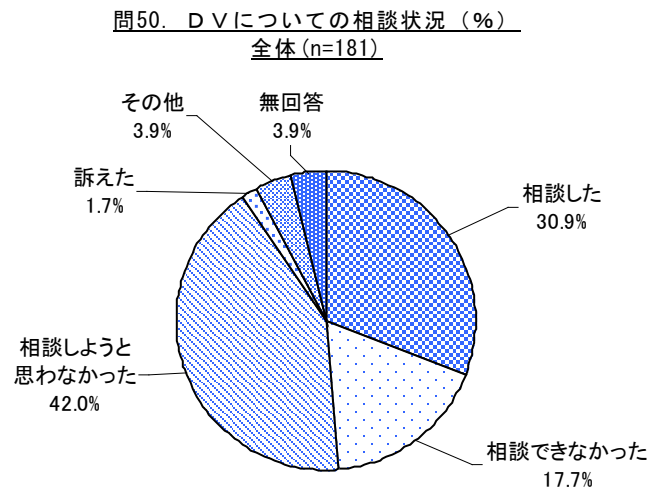
《性別》でみると、男性で「何を言っても、長時間無視された」が女性に比べ多く、女性で「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」が多くなっている。

《性・年齢別》では、女性 20 歳代で「手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された」、女性 30 歳代で「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」が他の年齢層に比べ多くなっている。

《未既婚別》でみると、「既婚」で「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」、「離死別」で「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」、「未婚者」で「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」が他の層に比べ多くなっている。

7. DV（ドメスティック・バイオレンス）についての相談状況

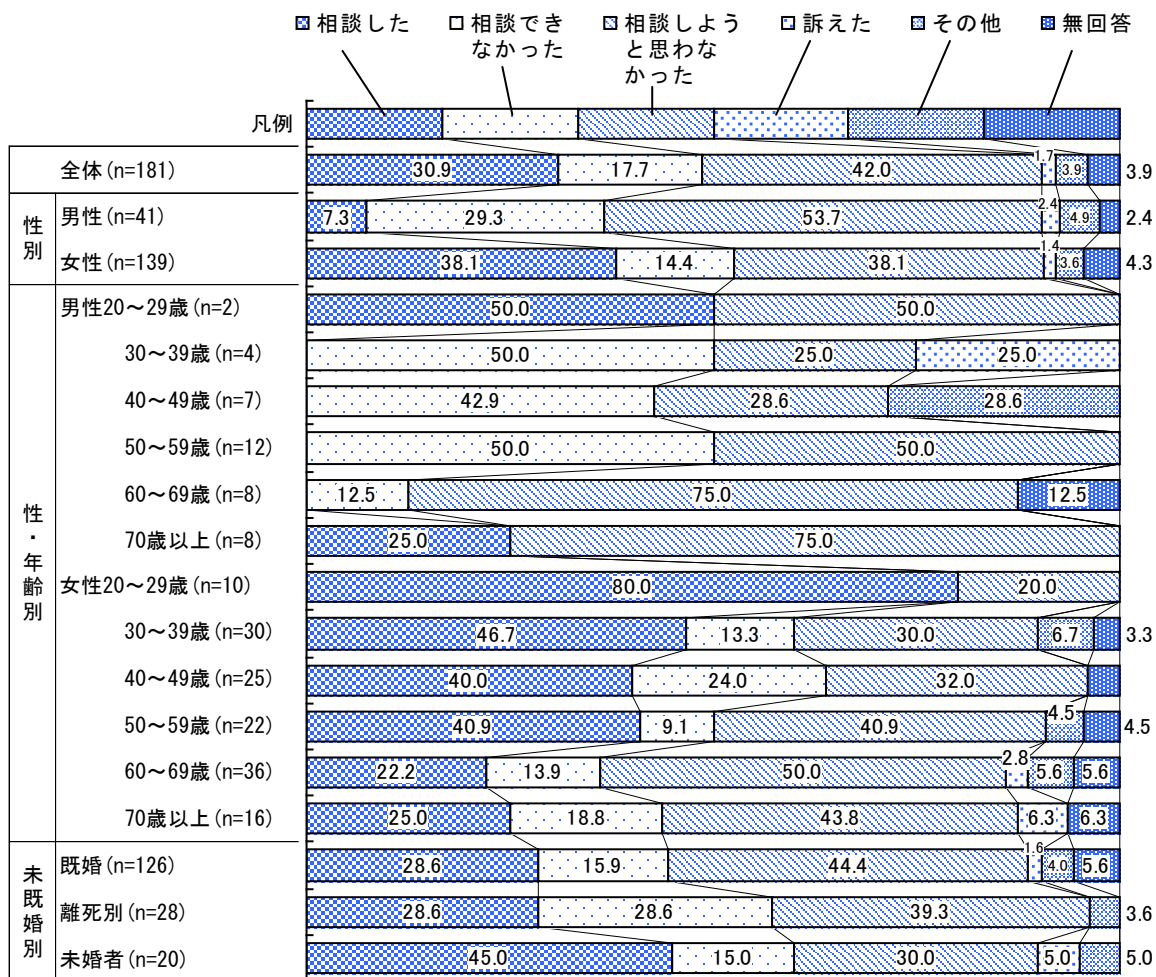
問 50. (問 48 で「1. たびたびある」「2. 1～2度ある」と回答した方に) DV（ドメスティック・バイオレンス）を受けた場合に誰かに打ち明けたりしましたか。(○印1つ)



DV（ドメスティック・バイオレンス）についての相談状況ついてみると、「相談しようと思わなかった」が42.0%と最も多く、次いで「相談した」（30.9%）、「相談できなかった」（17.7%）の順となっている。

【基本属性別】

問50. DVについての相談状況 (%)



※男性の50~59歳以外の年齢層では、該当件数 (n) が少ないため参考値として参照して下さい。

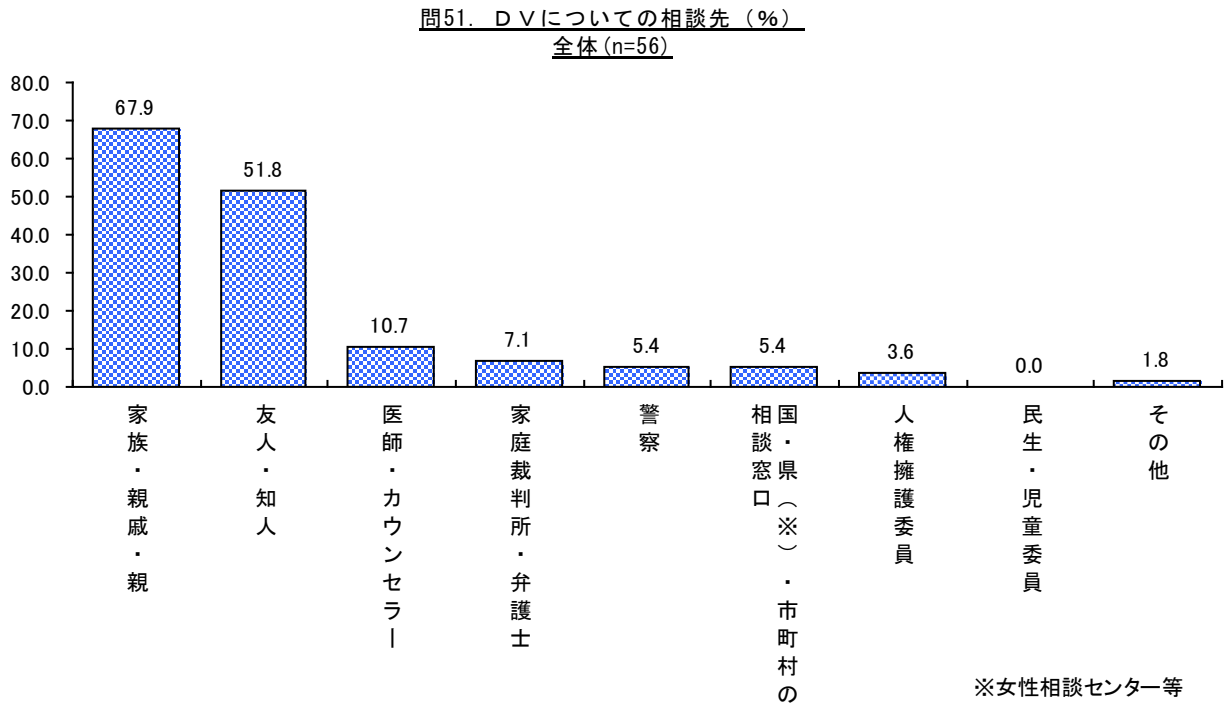
《性別》では、男性は女性に比べ「相談しようと思わなかった」が多く、女性は「相談した」が多くなっている。

《性・年齢別》では、女性で年齢層が若いほど「相談した」が多い傾向がみられる。また、女性60歳代で「相談しようと思わなかった」が半数を占め、他の年齢層に比べ多くなっている。

《未既婚別》では、「未婚者」で「相談した」が他の層に比べ多くなっている。

8. DV（ドメスティック・バイオレンス）についての相談先

問 51.（問 50 で「1. 相談した」と回答した方に）誰（どこ）に相談しましたか。（〇印いくつでも）



DV（ドメスティック・バイオレンス）についての相談先については、「家族・親戚・親」が67.9%と最も多く、次いで「友人・知人」（51.8%）の順となっており、その他の項目への回答は少ない。



【基本属性別】

問51. DVについての相談先

単位: %

		家族・親戚・親	友人・知人	警察	等 国・県（女性相談センター） 市町村の相談窓口	民生・児童委員	人権擁護委員	医師・カウンセラー	家庭裁判所・弁護士	その他
全体(n=56)		67.9	51.8	5.4	5.4	0.0	3.6	10.7	7.1	1.8
性別	男性(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3
	女性(n=53)	69.8	54.7	5.7	5.7	0.0	1.9	9.4	7.5	0.0
性・年齢別	男性20～29歳(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	30～39歳(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～49歳(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60～69歳(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	女性20～29歳(n=8)	62.5	75.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	30～39歳(n=14)	57.1	71.4	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0
	40～49歳(n=10)	80.0	30.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0
	50～59歳(n=9)	88.9	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
60～69歳(n=8)	75.0	62.5	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	
70歳以上(n=4)	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	
未既婚別	既婚(n=36)	75.0	52.8	0.0	2.8	0.0	5.6	11.1	0.0	0.0
	離死別(n=8)	75.0	50.0	12.5	25.0	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0
	未婚者(n=9)	55.6	55.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1

※男性は、該当件数 (n) が少ないため参考値として参照して下さい。

※女性は、20～29歳、50歳以上の各年齢層については、該当件数 (n) が少ないため参考値として参照して下さい。

※離死別、未婚者は、該当件数 (n) が少ないため参考値として参照して下さい。

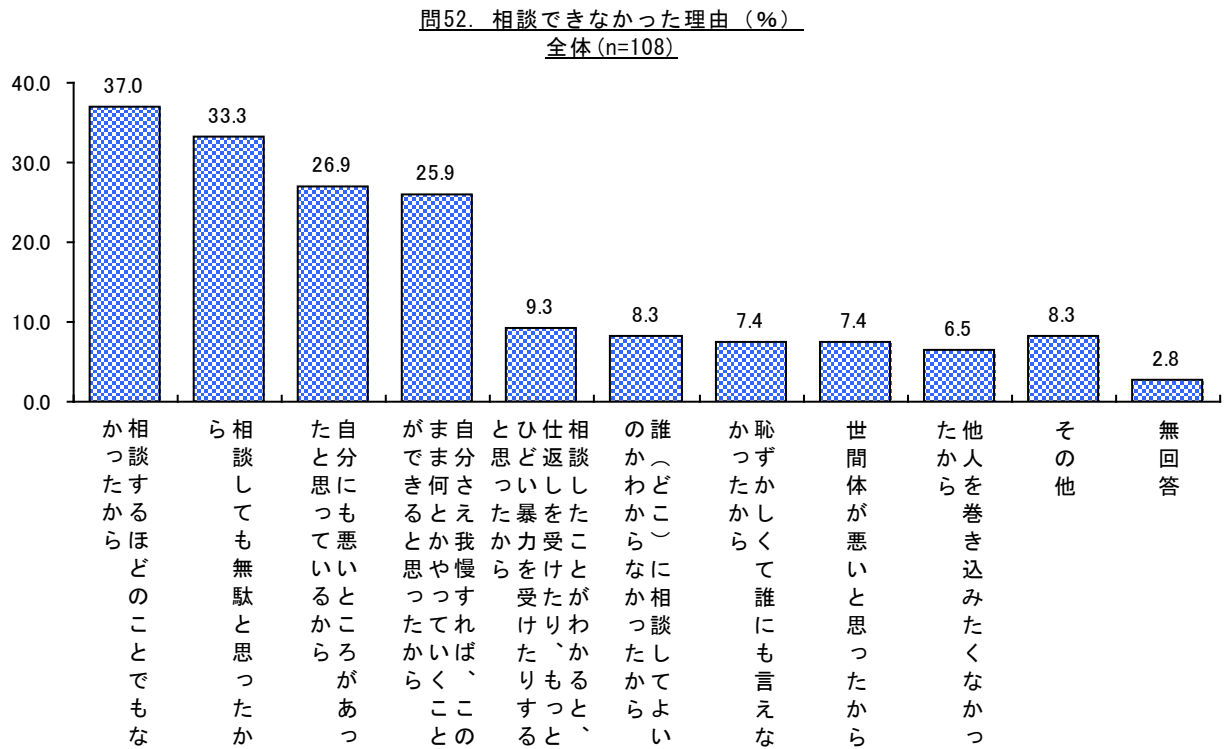
《性別》でみると、女性で「家族・親戚・親」「友人・知人」が多くなっている。

《性・年齢別》では、女性30歳代で「友人・知人」、女性40歳代で「家族・親戚・親」が多くなっている。

《未既婚別》での大きな差はみられない。

9. 相談できなかった理由

問 52. (問 50 で「2. 相談できなかった」「3. 相談しようと思わなかった」と回答した方に) その理由はなぜですか。(〇印いくつでも)



相談できなかった理由について、「相談するほどのことでもなかったから」が 37.0%と最も多く、次いで「相談しても無駄と思ったから」(33.3%)、「自分にも悪いところがあったと思っているから」(26.9%)、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」(25.9%)の順となっている。

【基本属性別】

問52. 相談できなかった理由

単位:%

	誰かから相談したから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄と思ったから	力を受けたたりすると思つたから	相談したことがわかると、仕返しを受けたたりすると思つたから	自分さえ我慢すれば、このままとかやっていくことができると思つたから	世間体が悪いと思つたから	他人を巻き込みたくなかつたから	自分にも悪いところがあつたと思つているから	相談するほどのことでもなかつたから	その他	無回答
全体(n=108)	8.3	7.4	33.3	9.3	25.9	7.4	6.5	26.9	37.0	8.3	2.8	
性別												
男性(n=34)	8.8	11.8	38.2	11.8	26.5	5.9	8.8	29.4	41.2	2.9	5.9	
女性(n=73)	8.2	5.5	31.5	8.2	26.0	6.8	5.5	26.0	35.6	11.0	1.4	
性・年齢別												
男性20~29歳(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
30~39歳(n=3)	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	
40~49歳(n=5)	0.0	40.0	40.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	
50~59歳(n=12)	16.7	8.3	58.3	16.7	16.7	0.0	16.7	8.3	16.7	0.0	16.7	
60~69歳(n=7)	14.3	0.0	28.6	14.3	42.9	0.0	0.0	57.1	57.1	0.0	0.0	
70歳以上(n=6)	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	66.7	66.7	0.0	0.0	
女性20~29歳(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
30~39歳(n=13)	7.7	0.0	23.1	15.4	30.8	15.4	7.7	15.4	15.4	7.7	0.0	
40~49歳(n=14)	14.3	7.1	28.6	14.3	14.3	0.0	7.1	14.3	35.7	14.3	0.0	
50~59歳(n=11)	9.1	9.1	18.2	9.1	18.2	0.0	9.1	36.4	36.4	0.0	0.0	
60~69歳(n=23)	8.7	8.7	47.8	4.3	30.4	8.7	4.3	21.7	47.8	13.0	4.3	
70歳以上(n=10)	0.0	0.0	30.0	0.0	40.0	10.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	
未既婚別												
既婚(n=76)	10.5	6.6	36.8	7.9	27.6	7.9	3.9	26.3	40.8	5.3	2.6	
離死別(n=19)	5.3	5.3	31.6	10.5	26.3	5.3	0.0	31.6	21.1	15.8	0.0	
未婚者(n=9)	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1	0.0	33.3	22.2	33.3	22.2	11.1	

※男性の50~59歳以外の年齢層、女性の20~29歳、未婚者は、該当件数(n)が少ないため参考値として参照して下さい。

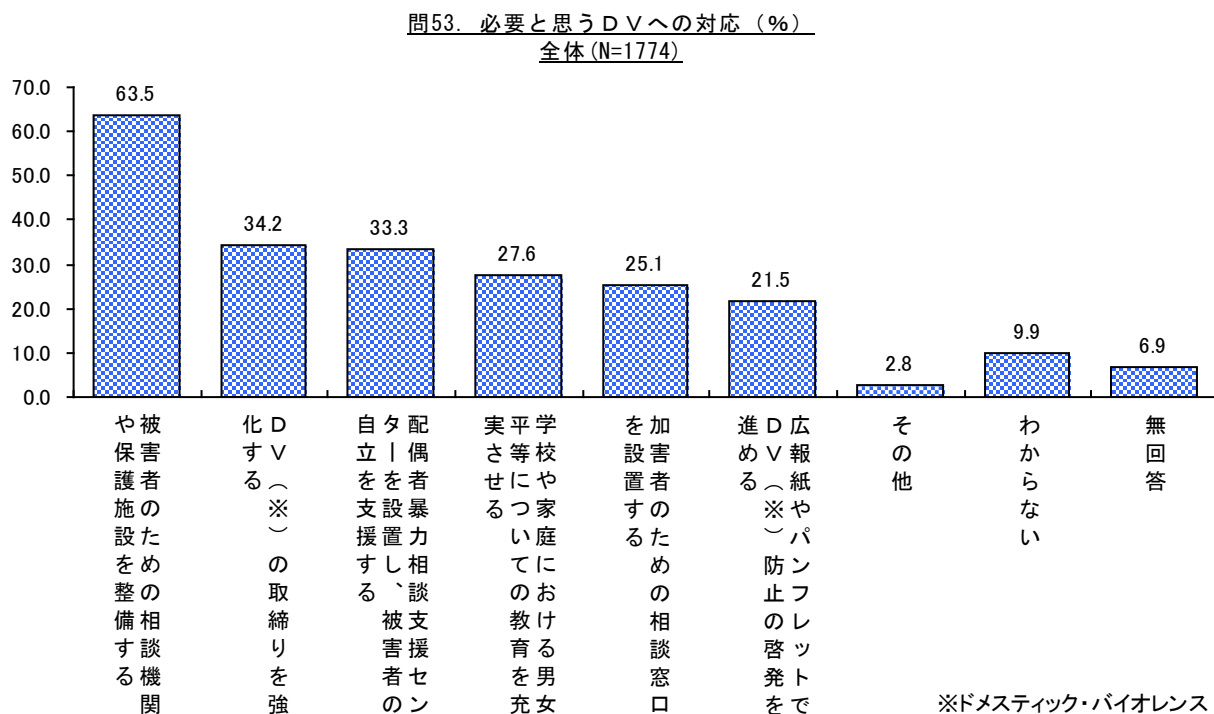
《性別》で見ると、女性に比べ男性で「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「相談しても無駄と思つたから」がやや多くなっている。

《性・年齢別》では、女性60歳代で「相談しても無駄と思つたから」「相談するほどのことでもなかつたから」、女性70歳以上で「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思つたから」が他の年齢層に比べ多くなっている。

《未既婚別》では、「既婚」で「相談するほどのことでもなかつたから」が他の層に比べ多くなっている。

10. 必要と思うDV（ドメスティック・バイオレンス）への対応

問53. すべての方にお聞きます。DV（ドメスティック・バイオレンス）の対応として、どのようなことが必要だと思いますか。（〇印いくつでも）



必要と思うDV（ドメスティック・バイオレンス）への対応については、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」が63.5%と最も多く、次いで「DV（ドメスティック・バイオレンス）の取締りを強化する」（34.2%）、「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」（33.3%）の順となっている。

【基本属性別】

問53. 必要と思うDVへの対応

単位：%

	広報紙やパンフレット・パイオレンス（ドメスティック・バイオレンス）の啓発を進める	DV（ドメスティック・バイオレンス）の取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	その他	わからない	無回答
全体(N=1774)	21.5	34.2	63.5	25.1	33.3	27.6	2.8	9.9	6.9
性別									
男性(n=799)	21.4	34.8	62.1	22.5	27.0	28.7	2.9	9.9	6.5
女性(n=962)	21.6	34.0	65.1	27.1	38.8	26.7	2.7	9.9	7.0
性・年齢別									
男性20～29歳(n=55)	18.2	40.0	60.0	36.4	32.7	34.5	9.1	9.1	0.0
30～39歳(n=108)	15.7	44.4	73.1	21.3	32.4	22.2	6.5	7.4	0.9
40～49歳(n=116)	17.2	45.7	73.3	25.0	28.4	16.4	3.4	6.9	4.3
50～59歳(n=123)	21.1	38.2	69.1	22.0	23.6	26.0	3.3	7.3	2.4
60～69歳(n=214)	22.0	29.0	56.5	21.5	27.1	35.0	1.4	10.7	8.4
70歳以上(n=181)	28.2	25.4	50.3	18.8	23.2	33.1	0.0	14.4	13.8
女性20～29歳(n=76)	27.6	57.9	76.3	44.7	43.4	32.9	9.2	1.3	2.6
30～39歳(n=166)	22.3	47.0	75.3	28.9	41.6	27.7	4.8	4.2	0.6
40～49歳(n=172)	14.0	39.0	79.1	32.0	44.8	23.3	3.5	7.0	0.6
50～59歳(n=144)	23.6	35.4	70.1	29.9	41.7	34.0	2.1	9.7	4.2
60～69歳(n=233)	24.0	24.9	59.2	23.6	39.5	24.5	0.9	12.9	7.7
70歳以上(n=165)	20.0	17.0	40.0	15.2	23.0	23.0	0.0	18.8	23.6
未既婚別									
既婚(n=1309)	22.9	34.5	65.1	25.2	34.8	28.6	2.3	9.1	6.0
離死別(n=199)	17.1	26.6	46.2	13.6	25.1	21.1	1.5	16.6	16.1
未婚者(n=218)	19.7	39.0	72.0	33.9	33.0	28.9	6.4	7.8	2.3

《性別》では、男性に比べ女性で「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」が多くなっている。

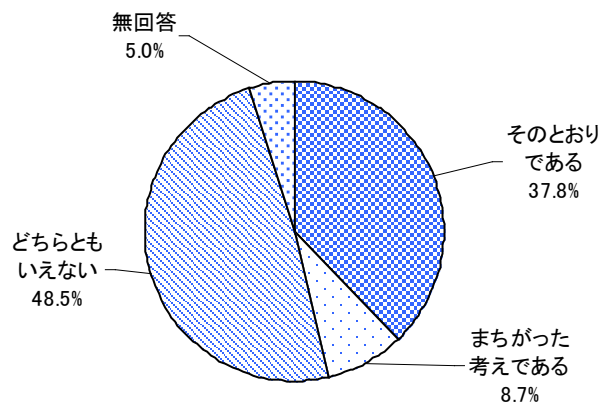
《性・年齢別》では、男性 20 歳代で「加害者のための相談窓口を設置する」、女性 20 歳代で「DV（ドメスティック・バイオレンス）の取締りを強化する」「加害者のための相談窓口を設置する」が他の年齢層に比べ多くなっている。また、女性では若い年齢層ほど「DV（ドメスティック・バイオレンス）の取締りを強化する」が多い傾向がみられる。

《未既婚別》では、「未婚者」で「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」「加害者のための相談窓口を設置する」が他の層に比べ多くなっている。

11. 「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という考えについて

問 54. 子どもの育て方については「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」とお考えですか。(○印1つ)

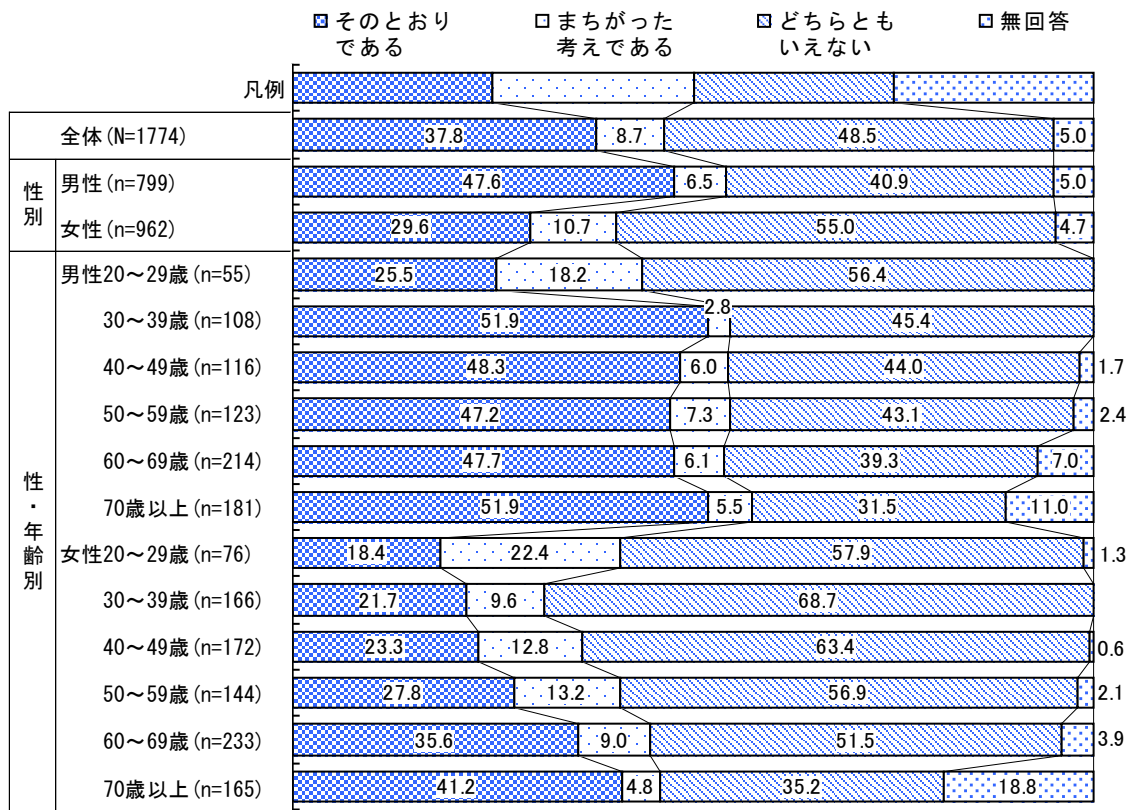
問54. 「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という考えについて (%)  
全体 (N=1774)



「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という考えについては、「どちらともいえない」が48.5%と最も多くなっている。また、「そのとおりである」が37.8%、「まちがった考えである」が8.7%で、賛同意識が否定的意識を上回っている。

【基本属性別】

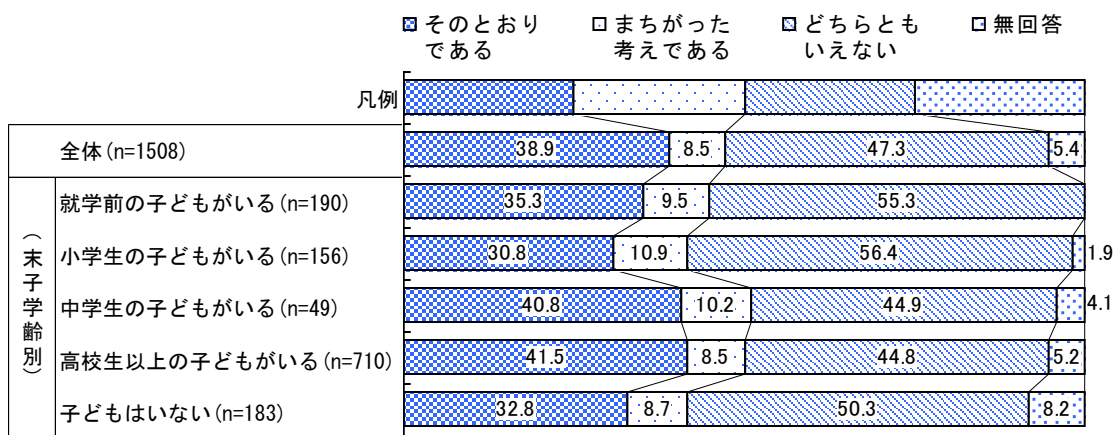
問54. 「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という考えについて (%)  
全体 (N=1774)



《性別》では、女性に比べ男性で「そのとおりである」が多くなっている。

《性・年齢別》では、男性は30歳以上の各年齢層で「そのとおりである」が約半数を占め、女性では年齢が上がるにつれ「そのとおりである」が多い傾向がみられる。

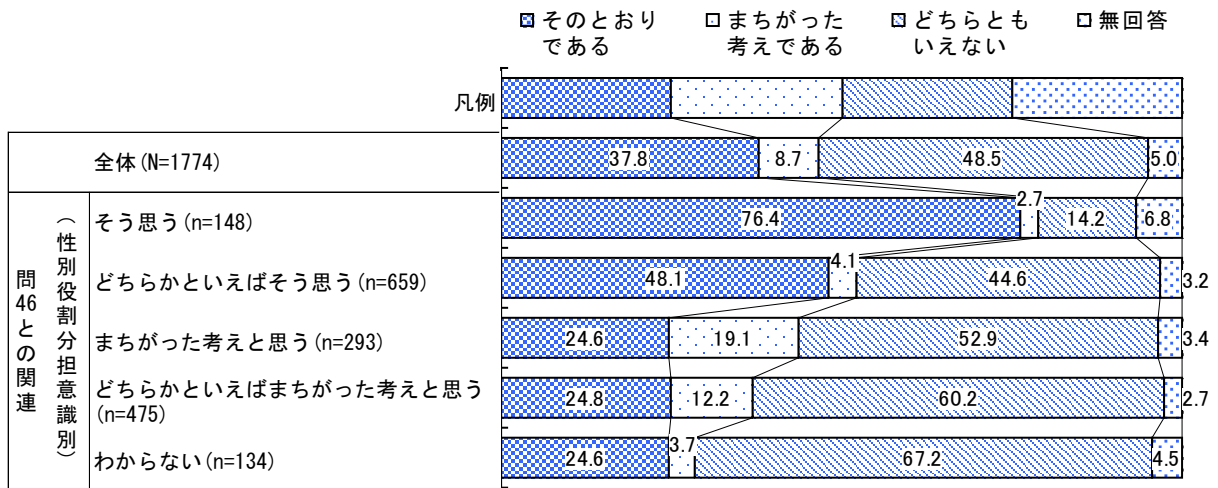
問54. 「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という考えについて (%)



《末子学齢別》では、「中学生の子どもがいる」「高校生以上の子どもがいる」で「そのとおりである」が他の層に比べやや多くなっている。

【問 54 と問 46 との関連】

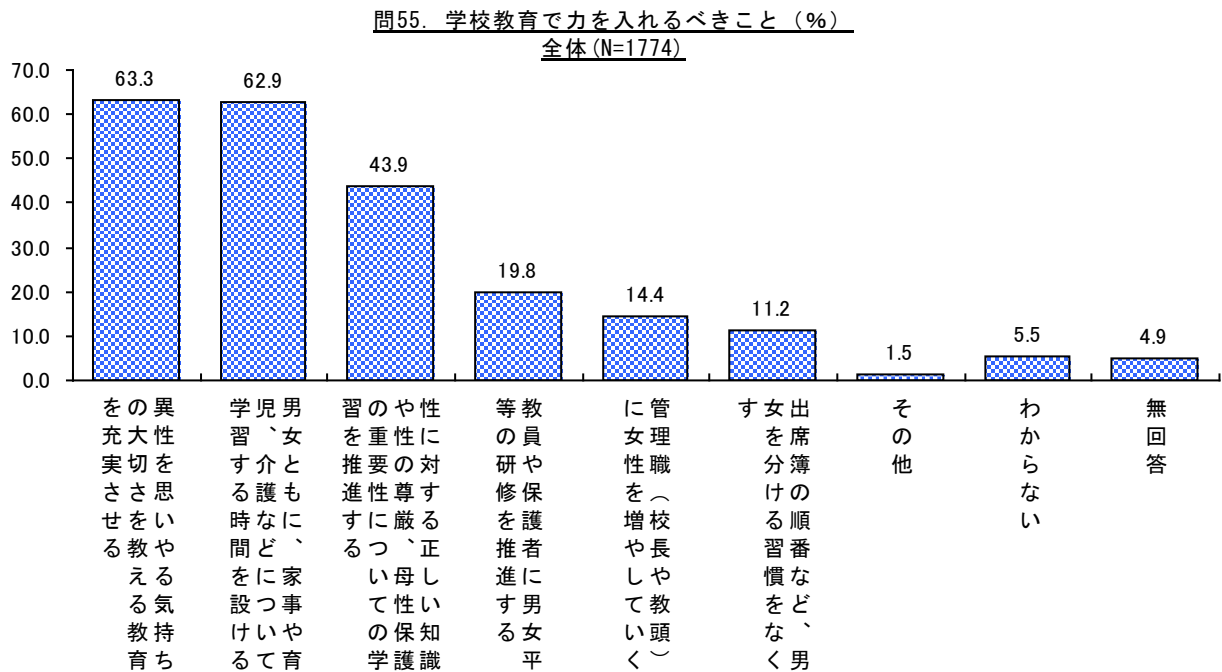
問54. 「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という考えについて (%)



問 46《性別役割分担意識別》との関連では、「そう思う」で「そのとおりである」が他の層を大きく上回っている。

12. 学校教育で力を入れるべきこと

問 55. 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印いくつでも)



学校教育で力を入れるべきことについては、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」が63.3%と最も多く、次いで「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」(62.9%)、「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」(43.9%)の順となっている。



【基本属性別】

問55. 学校教育で力を入れるべきこと

単位: %

	実大異 さ切性 させを るさを 教思い えるや る気持 をち充 の	習児男 す、女 る介と 時間も をに、 設け家 る事 つや いて育 学	進要性 するに 性尊 に對 つ徹 いて 母正 の性 学保 習護 をの 推重 や	の教員 の研 修や 保 護者 に 男 女 平 等	女管理 性を職 増(校 や長 や教 頭) に	を出席 簿の 順番 など 、男 女	その他	わ か ら な い	無 回 答	
全体(N=1774)	63.3	62.9	43.9	19.8	14.4	11.2	1.5	5.5	4.9	
性別	男性(n=799)	63.0	56.3	42.9	22.4	14.0	11.3	2.0	7.0	4.3
	女性(n=962)	63.8	68.3	44.6	17.7	14.9	11.2	1.1	4.3	5.3
性・年齢別	男性20～29歳(n=55)	65.5	58.2	45.5	25.5	16.4	21.8	3.6	10.9	0.0
	30～39歳(n=108)	63.0	68.5	44.4	16.7	16.7	12.0	4.6	5.6	0.0
	40～49歳(n=116)	65.5	56.9	42.2	24.1	11.2	8.6	2.6	7.8	1.7
	50～59歳(n=123)	68.3	55.3	42.3	19.5	16.3	8.9	1.6	5.7	1.6
	60～69歳(n=214)	65.0	51.4	46.3	23.4	14.0	11.2	0.9	5.6	6.1
	70歳以上(n=181)	54.7	54.1	37.6	24.9	12.2	11.0	1.1	8.8	9.4
	女性20～29歳(n=76)	64.5	82.9	56.6	28.9	28.9	27.6	1.3	2.6	1.3
	30～39歳(n=166)	65.7	74.7	47.6	18.1	16.9	13.9	3.6	3.0	0.6
	40～49歳(n=172)	66.3	80.8	45.9	14.0	13.4	10.5	1.2	2.3	0.6
	50～59歳(n=144)	74.3	68.8	44.4	22.2	20.1	9.7	0.0	2.8	3.5
60～69歳(n=233)	64.4	61.4	46.4	17.2	12.0	9.0	0.4	5.6	6.0	
70歳以上(n=165)	50.3	50.3	32.7	12.7	7.9	6.1	0.6	7.9	17.6	

《性別》でみると、男性に比べ女性で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」が多くなっている。

《性・年齢別》では、男性 20 歳代で「出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす」と男性 30 歳代の「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」、女性 20 歳代で「管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく」「出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす」が他の年齢層に比べ多くなっている。

問55. 学校教育で力を入れるべきこと

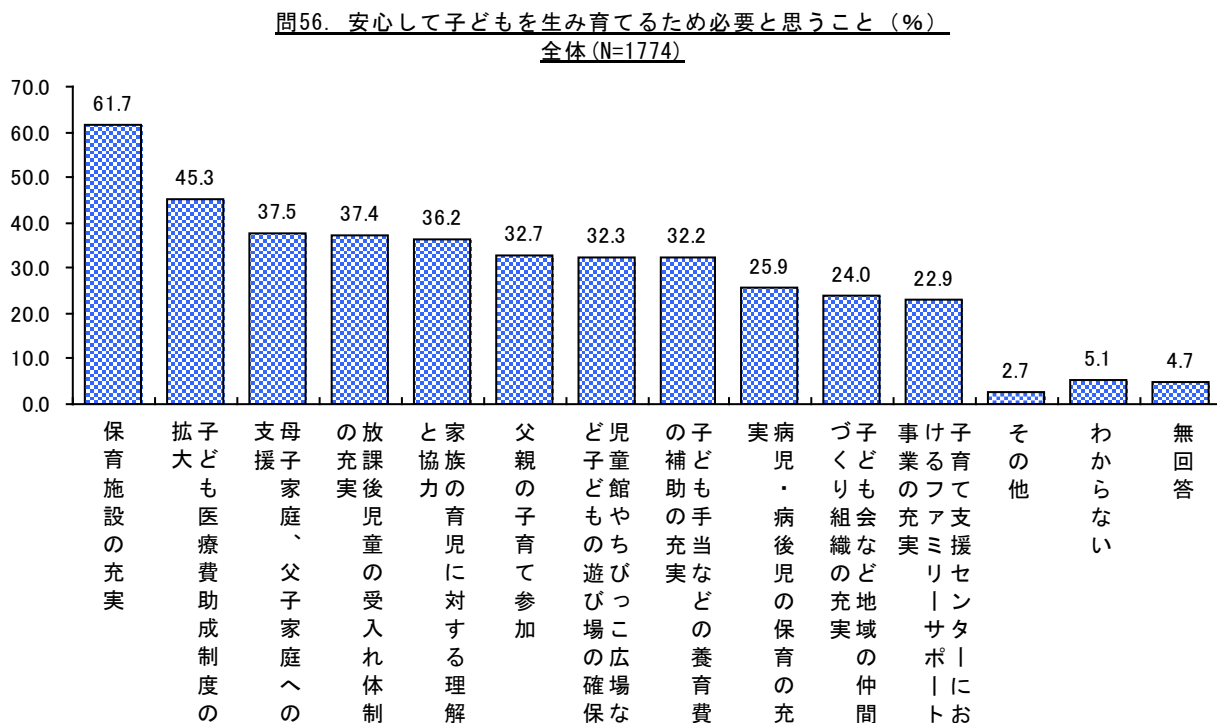
単位: %

	実大異 さ切性 させを るさを 教思い えるや る気持 をち充 の	習児男 す、女 る介と 時間も をに、 設け家 る事 つや いて育 学	進要性 するに 性尊 に對 つ徹 いて 母正 の性 学保 習護 をの 推重 や	の教員 の研 修や 保 護者 に 男 女 平 等	女管理 性を職 増(校 や長 や教 頭) に	を出席 簿の 順番 など 、男 女	その他	わ か ら な い	無 回 答	
全体(n=1508)	64.5	62.2	44.1	19.1	13.7	10.1	1.5	4.9	5.4	
末子学 年齢別	就学前の子どもがいる(n=190)	66.8	76.3	47.4	16.3	14.7	11.6	3.2	2.1	0.5
	小学生の子どもがいる(n=156)	66.0	67.3	48.1	17.3	12.8	9.0	2.6	6.4	1.9
	中学生の子どもがいる(n=49)	61.2	63.3	46.9	18.4	10.2	12.2	0.0	6.1	4.1
	高校生以上の子どもがいる(n=710)	66.5	59.9	44.8	20.1	14.1	9.9	1.0	4.2	5.5
	子どもはいない(n=183)	60.7	55.7	44.8	22.4	11.5	10.4	2.7	4.9	8.2

《末子学齢別》では、「就学前の子どもがいる」で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」が他の層に比べ多くなっている。

13. 安心して子どもを生み育てるため必要と思うこと

問 56. 安心して子どもを生み育てるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)



安心して子どもを生み育てるため必要と思うことについては、「保育施設の充実」が 61.7%と最も多く、次いで「子ども医療費助成制度の拡大」(45.3%)、「母子家庭、父子家庭への支援」(37.5%)、「放課後児童の受入れ体制の充実」(37.4%)の順となっている。

【基本属性別】

問56. 安心して子どもを生み育てるため必要と思うこと

単位: %

	の子ども手当などの養育費の補助	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館やちびっこ広場など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり	子育て支援センターにおけるファミリーサポート事業の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答	
全体(N=1774)	32.2	45.3	61.7	32.3	24.0	22.9	32.7	36.2	37.5	37.4	25.9	2.7	5.1	4.7	
性別	男性(n=799)	34.0	46.6	60.5	30.9	26.3	21.5	24.3	30.9	37.0	30.8	21.8	2.6	6.3	3.9
	女性(n=962)	30.8	44.1	62.8	33.4	21.8	24.2	39.5	40.9	37.9	42.9	29.4	2.8	4.2	5.3
性・年齢別	男性20～29歳(n=55)	45.5	50.9	61.8	34.5	30.9	25.5	47.3	36.4	43.6	38.2	38.2	9.1	5.5	0.0
	30～39歳(n=108)	50.9	59.3	62.0	42.6	23.1	25.0	34.3	29.6	43.5	49.1	36.1	2.8	0.9	0.0
	40～49歳(n=116)	39.7	56.9	55.2	31.0	23.3	21.6	27.6	31.9	36.2	31.9	20.7	4.3	6.0	1.7
	50～59歳(n=123)	29.3	50.4	67.5	21.1	18.7	22.0	16.3	33.3	39.8	30.1	16.3	2.4	3.3	3.3
	60～69歳(n=214)	29.9	37.9	62.1	27.6	28.9	20.6	19.2	27.6	32.7	25.7	17.8	1.4	8.4	4.7
	70歳以上(n=181)	25.4	39.2	55.8	33.7	29.8	19.3	21.0	30.9	34.3	23.8	17.7	1.1	9.4	8.3
	女性20～29歳(n=76)	47.4	46.1	75.0	48.7	27.6	27.6	63.2	63.2	59.2	53.9	42.1	5.3	0.0	1.3
	30～39歳(n=166)	45.8	60.8	63.3	37.3	21.1	21.7	47.0	45.8	42.2	49.4	44.0	5.4	1.8	0.0
	40～49歳(n=172)	31.4	47.7	62.8	33.1	20.3	25.6	44.8	39.5	35.5	46.5	30.2	2.9	2.9	1.2
	50～59歳(n=144)	28.5	44.4	73.6	29.9	16.0	29.2	36.8	42.4	40.3	51.4	23.6	2.8	2.8	3.5
	60～69歳(n=233)	23.2	39.5	62.7	33.0	28.3	26.6	36.1	37.3	33.5	38.2	24.9	0.4	6.0	4.3
	70歳以上(n=165)	19.4	28.5	47.3	26.7	18.2	16.4	23.0	31.5	31.5	26.1	19.4	1.8	8.5	20.0

《性別》でみると、女性は男性に比べ「父親の子育て参加」「家族の育児に対する理解と協力」「放課後児童の受入れ体制の充実」が多くなっている。

《性・年齢別》では、男性 20 歳代で「父親の子育て参加」、女性 20 歳代で「児童館やちびっこ広場など子どもの遊び場の確保」「父親の子育て参加」「家族の育児に対する理解と協力」「母子家庭、父子家庭への支援」、女性 30 歳代で「子ども医療費助成制度の拡大」が他の年齢層に比べ多くなっている。

問56. 安心して子どもを生み育てるため必要と思うこと

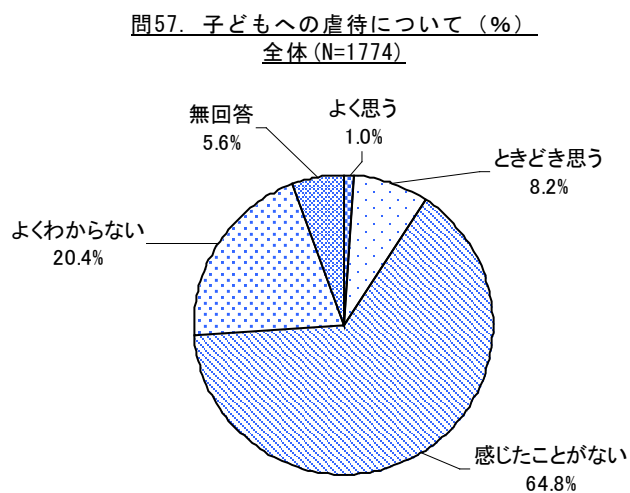
単位: %

	の子ども手当などの養育費の補助	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館やちびっこ広場など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり	子育て支援センターにおけるファミリーサポート事業の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答	
全体(n=1508)	32.4	46.4	62.0	32.6	23.6	22.8	31.5	35.3	36.4	36.2	24.8	2.7	5.0	5.0	
末子学齢別	就学前の子どもがいる(n=190)	54.7	63.2	66.8	44.7	18.9	24.2	45.8	43.7	41.6	51.6	44.7	5.8	0.5	0.0
	小学生の子どもがいる(n=156)	47.4	66.7	51.3	38.5	23.1	22.4	37.2	37.8	36.5	44.9	32.1	2.6	3.8	2.6
	中学生の子どもがいる(n=49)	34.7	63.3	65.3	20.4	18.4	18.4	26.5	24.5	36.7	36.7	20.4	0.0	4.1	4.1
	高校生以上の子どもがいる(n=710)	26.2	41.4	64.4	30.4	25.4	24.1	29.7	37.3	37.7	35.2	21.7	2.1	4.2	4.6
	子どもはいない(n=183)	27.3	37.2	62.8	29.0	23.0	19.7	27.3	28.4	37.2	28.4	18.0	3.8	8.2	7.7

《末子学齢別》では、「就学前の子どもがいる」で「病児・病後児の保育の充実」が他の層に比べ多くなっている。

14. 子どもへの虐待について

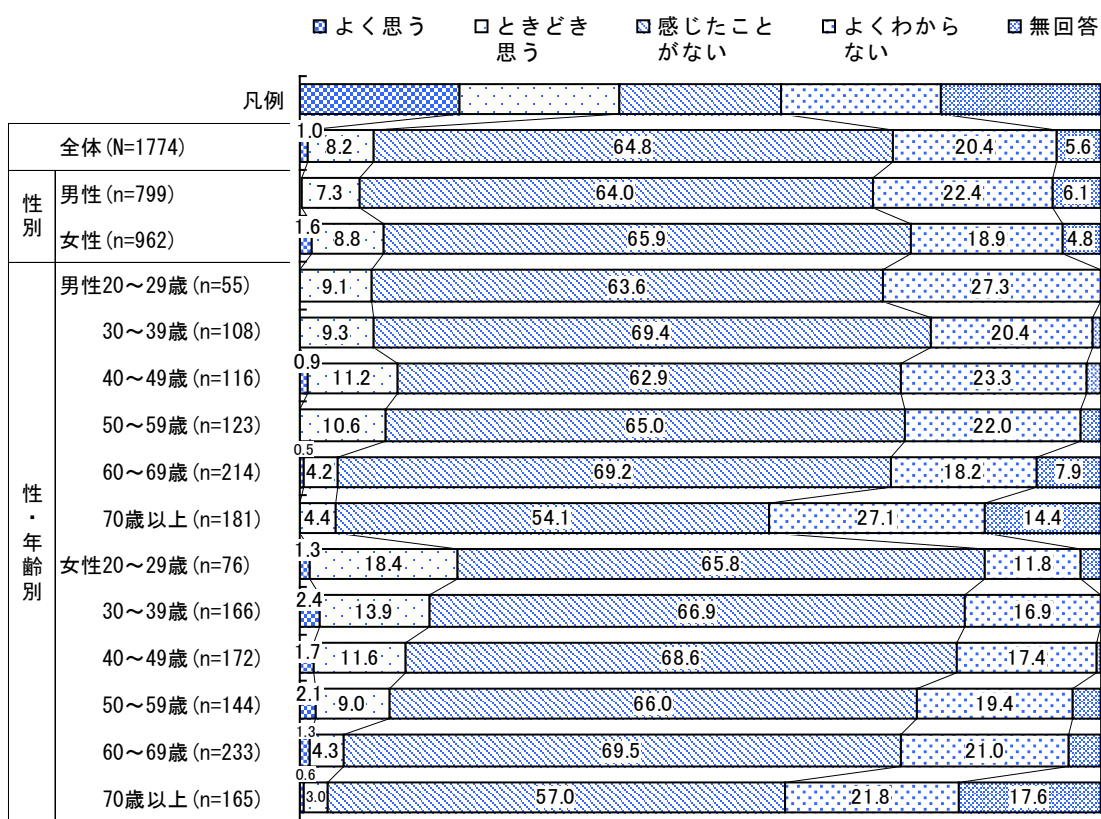
問 57. 自分の周りで子どもを虐待しているのではないかと思ったことがありますか。(○印1つ)



子どもへの虐待については、「よく思う」が 1.0%、「ときどき思う」が 8.2%、合計 9.2%で、約 1 割が虐待を感じている。一方、「感じたことがない」は 64.8%と 6 割を超え最も多くなっている。

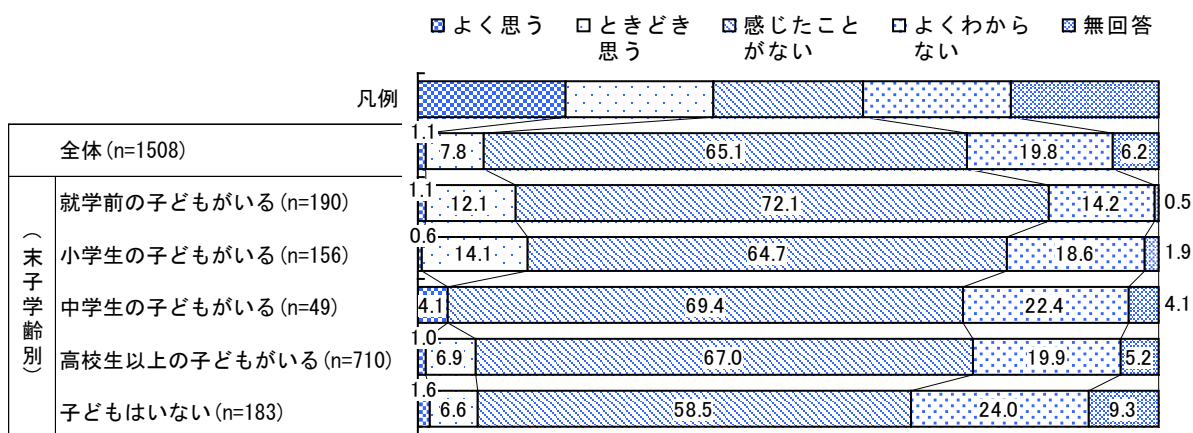
【基本属性別】

問57. 子どもへの虐待について (%)



《性別》での大きな差は見られないが、《性・年齢別》では、女性の若い年齢層ほど、虐待を感じているのが多い傾向がみられる。

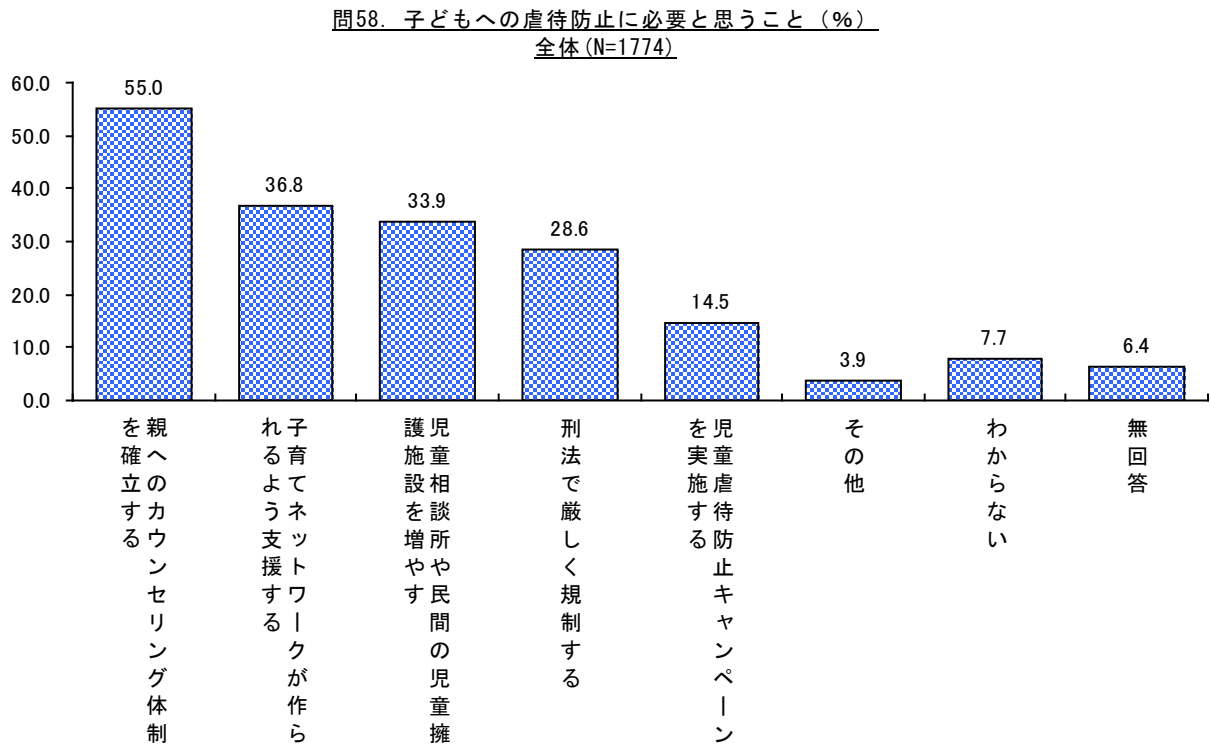
問57. 子どもへの虐待について (%)



《末子学齢別》では、「就学前の子どもがいる」「小学生の子どもがいる」で「ときどき思う」が他の層に比べやや多くなっている。

15. 子どもへの虐待防止に必要と思うこと

問 58. 子どもへの虐待を起こさないためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)



子どもへの虐待防止に必要と思うことについては、「親へのカウンセリング体制を確立する」が55.0%と最も多く、次いで「子育てネットワークが作られるよう支援する」(36.8%)、「児童相談所や民間の児童擁護施設を増やす」(33.9%)、「刑法で厳しく規制する」(28.6%)の順となっている。

【基本属性別】

問58. 子どもへの虐待防止に必要と思うこと 単位: %

	親への カウンセリング 体制を確立する	子育て ネットワークが 作られるよう 支援する	児童 擁護施設や 民間の児 童相談所を 増やす	刑法で 厳しく規制 する	児童 虐待防止 キャンペーン を実施する	その他	わからない	無 回 答
全体(N=1774)	55.0	36.8	33.9	28.6	14.5	3.9	7.7	6.4
性別								
男性(n=799)	50.6	33.8	33.5	36.3	16.9	3.6	8.3	5.1
女性(n=962)	58.8	39.5	34.4	22.6	12.5	4.3	7.1	7.3
性・年齢別								
男性20～29歳(n=55)	60.0	38.2	34.5	32.7	16.4	10.9	7.3	0.0
30～39歳(n=108)	50.9	44.4	36.1	41.7	14.8	5.6	4.6	0.0
40～49歳(n=116)	52.6	33.6	31.0	41.4	12.1	6.0	10.3	3.4
50～59歳(n=123)	48.0	36.6	37.4	41.5	15.4	2.4	4.9	3.3
60～69歳(n=214)	50.5	31.3	31.3	32.2	17.3	1.9	9.3	5.6
70歳以上(n=181)	47.5	27.6	33.1	32.0	22.1	1.7	10.5	11.6
女性20～29歳(n=76)	67.1	47.4	43.4	34.2	19.7	7.9	1.3	2.6
30～39歳(n=166)	64.5	39.8	31.3	28.3	8.4	8.4	6.0	1.8
40～49歳(n=172)	68.6	49.4	32.6	16.3	7.6	7.0	8.7	1.2
50～59歳(n=144)	59.7	38.9	34.0	27.8	13.2	3.5	6.3	6.9
60～69歳(n=233)	54.1	38.6	37.3	20.6	12.9	0.4	6.9	9.4
70歳以上(n=165)	44.8	27.3	31.5	16.4	17.0	1.8	10.3	18.2

《性別》でみると、女性に比べ男性で「刑法で厳しく規制する」が多くなっている。

《性・年齢別》では、男性 20 歳代で「親へのカウンセリング体制を確立する」、女性 40 歳代、20 歳代で「子育てネットワークが作られるよう支援する」が他の年齢層に比べ多くなっている。

問58. 子どもへの虐待防止に必要と思うこと 単位: %

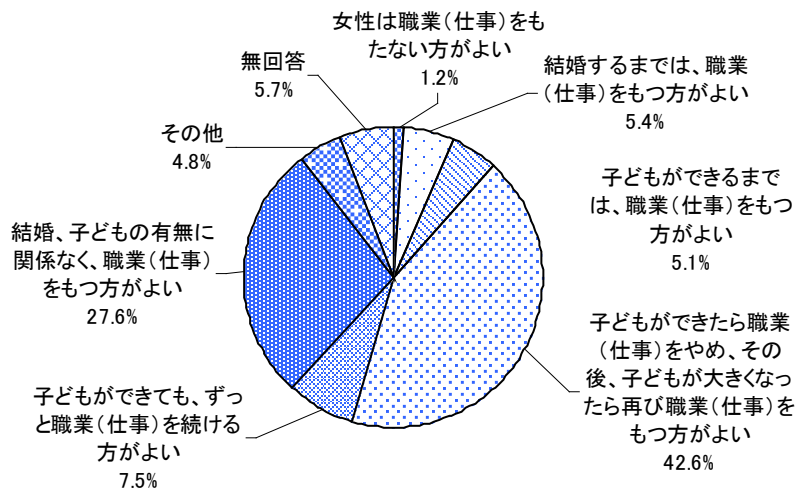
	親への カウンセリング 体制を確立する	子育て ネットワークが 作られるよう 支援する	児童 擁護施設や 民間の児 童相談所を 増やす	刑法で 厳しく規制 する	児童 虐待防止 キャンペーン を実施する	その他	わからない	無 回 答
全体(n=1508)	55.0	35.9	33.0	28.3	14.2	3.6	7.7	6.7
末子 学 齢 別								
就学前の子どもがいる(n=190)	63.7	40.0	27.4	25.3	7.9	6.3	7.9	2.1
小学生の子どもがいる(n=156)	62.2	41.0	32.7	34.0	12.8	9.6	6.4	1.9
中学生の子どもがいる(n=49)	55.1	34.7	34.7	26.5	14.3	8.2	6.1	4.1
高校生以上の子どもがいる(n=710)	54.5	39.0	34.4	26.9	14.6	2.3	7.3	6.5
子どもはいない(n=183)	50.8	27.9	33.9	32.2	15.3	2.2	10.4	8.2

《末子学齢別》では、「小学生の子どもがいる」で「刑法で厳しく規制する」が他の層に比べやや多くなっている。

16. 女性が職業（仕事）をもつことについて

問 59. 女性が職業（仕事）をもつことについて、どう思いますか。（○印1つ）

問59. 女性が職業（仕事）をもつことについて（%）  
全体（N=1774）



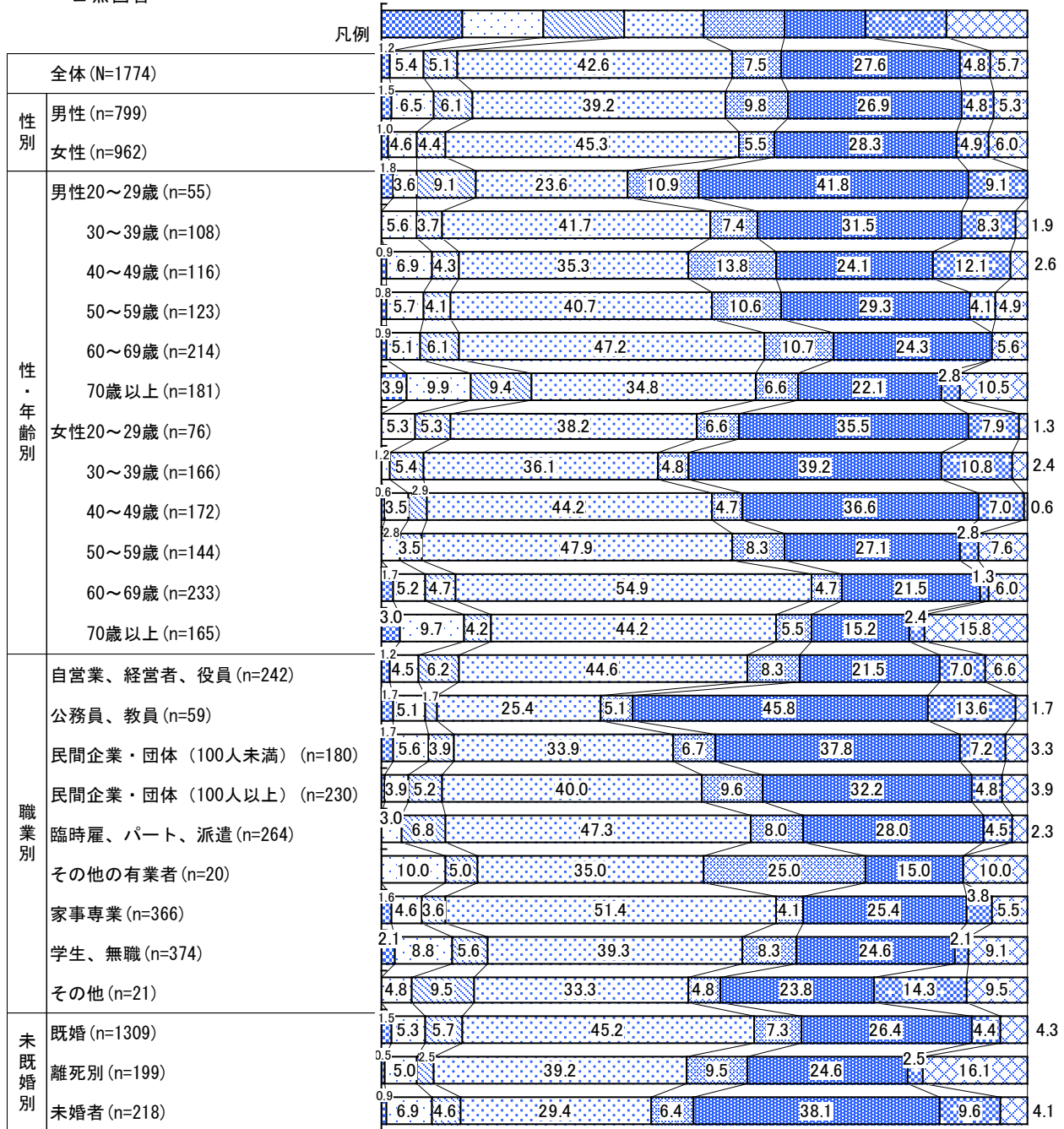
女性が職業（仕事）をもつことについては、「子どもができれば職業（仕事）をやめ、その後、子どもが大きくなったら再び職業（仕事）をもつ方がよい」が 42.6%と最も多く、次いで「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」（27.6%）、「子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい」（7.5%）の順となっている。



【基本属性別】

問59. 女性が職業（仕事）をもつことについて（％）

- 女性は職業（仕事）をもたない方がよい
- 結婚するまでは、職業（仕事）をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業（仕事）をもつ方がよい
- 子どもができたら職業（仕事）をやめ、その後、子どもが大きくなったら再び職業（仕事）をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい
- 結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい
- その他
- 無回答



《性別》では、男性に比べ女性で「子どもができたら職業（仕事）をやめ、その後、子どもが大きくなったら再び職業（仕事）をもつ方がよい」がやや多くなっている。

《性・年齢別》では、男性は20歳代で「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方

がよい」、女性は60歳代で「子どもができたら職業（仕事）をやめ、その後、子どもが大きくなったら再び職業（仕事）をもつ方がよい」が他の年齢層に比べて多くなっている。

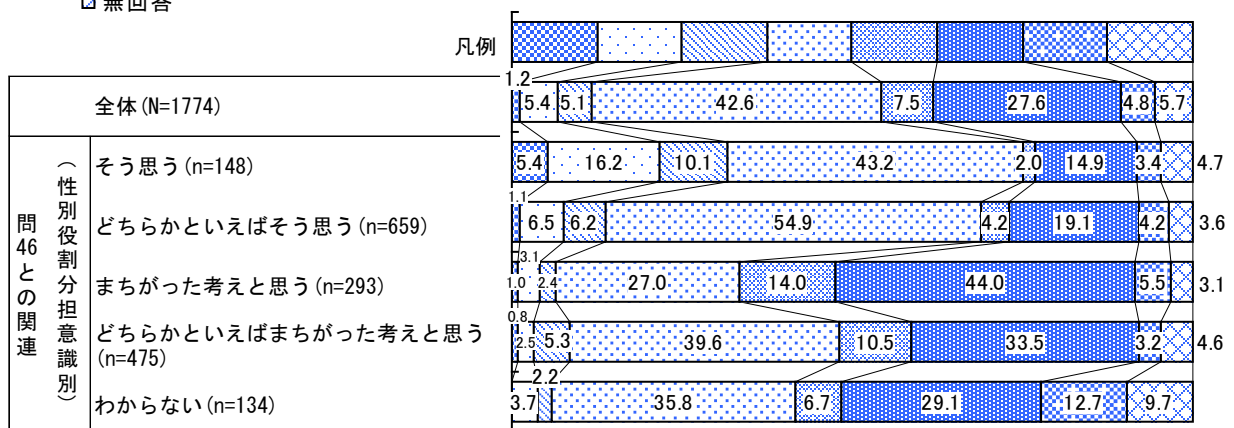
《職業別》でみると、「公務員、教員」で「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」、「家事専業」で「子どもができたら職業（仕事）をやめ、その後、子どもが大きくなったら再び職業（仕事）をもつ方がよい」が他の職業に比べて多くなっている。

《未既婚別》では、「未婚者」で「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」が他の層に比べて多くなっている。

【問 59 と問 46 との関連】

問59. 女性が職業（仕事）をもつことについて（％）

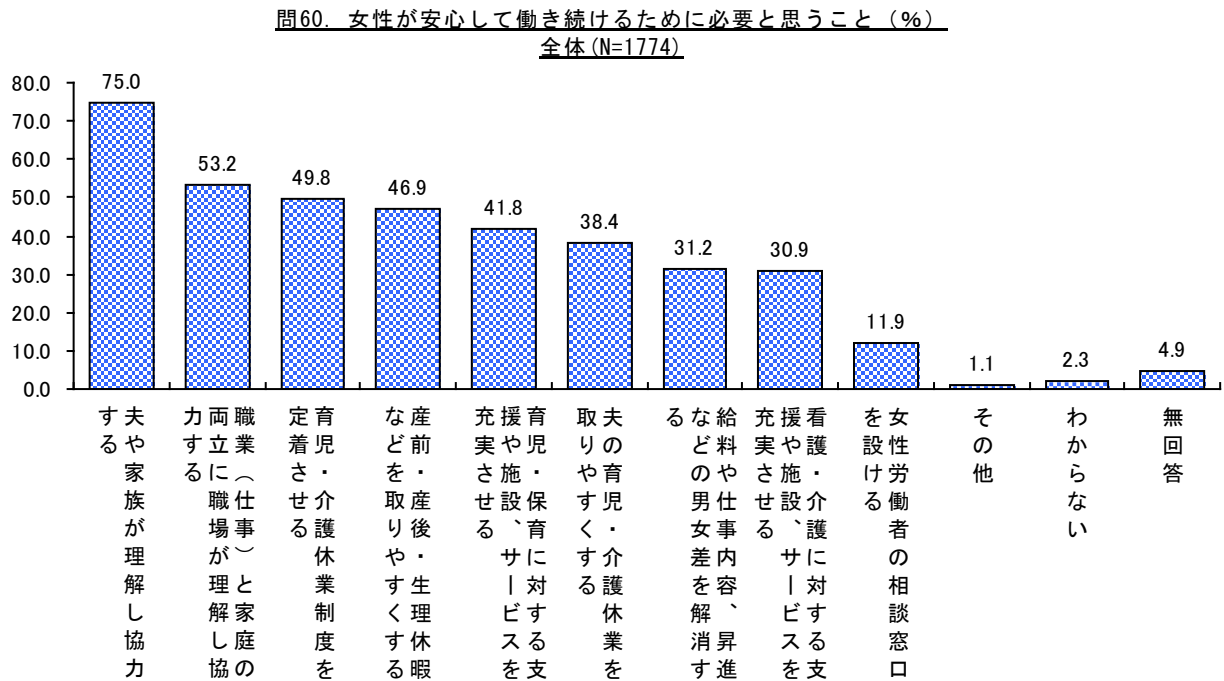
- 女性は職業（仕事）をもたない方がよい
- 結婚するまでは、職業（仕事）をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業（仕事）をもつ方がよい
- 子どもができたら職業（仕事）をやめ、その後、子どもが大きくなったら再び職業（仕事）をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい
- 結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい
- その他
- 無回答



問 46《性別役割分担意識別》との関連では、「どちらかといえばそう思う」で「子どもができたら職業（仕事）をやめ、その後、子どもが大きくなったら再び職業（仕事）をもつ方がよい」、「まちがった考えと思う」で「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」が他の層に比べて多くなっている。

17. 女性が安心して働き続けるために必要と思うこと

問 60. 女性が安心して働き続ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(○印いくつかでも)



女性が安心して働き続けるために必要と思うことについては、「夫や家族が理解し協力する」が75.0%と最も多く、次いで「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」（53.2%）、「育児・介護休業制度を定着させる」（49.8%）、「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」（46.9%）の順となっている。

【基本属性別】

問60. 女性が安心して働き続けるために必要と思うこと

単位：%

	す 夫 や 家 族 が 理 解 し 協 力	定 育 児 ・ 介 護 休 業 制 度 を 着 せ さ せ る	給 料 や 仕 事 内 容 ・ 昇 進 な ど の 男 女 差 を 解 消 す	職 業 ・ 仕 事 の 場 所 と 家 庭 の 理 解 と 協 力	産 前 ・ 産 後 ・ 生 理 休 暇 な ど を 取 り や す く す	夫 の 育 児 ・ 介 護 休 業 を 取 り や す く す	充 実 さ せ る 支 援 や 施 設 ・ サ ー ビ ス	充 実 さ せ る 支 援 や 施 設 ・ サ ー ビ ス	看 護 ・ 介 護 に 対 す る 支 援 や 施 設 ・ サ ー ビ ス	女 性 労 働 者 の 相 談 窓 口 を 設 け る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体(N=1774)	75.0	49.8	31.2	53.2	46.9	38.4	41.8	30.9	11.9	1.1	2.3	4.9	
性別													
男性(n=799)	70.6	46.8	30.9	48.3	44.1	35.9	37.9	26.2	11.0	1.0	3.3	4.9	
女性(n=962)	78.8	52.6	31.6	57.1	49.4	40.7	45.0	34.8	12.6	1.1	1.6	4.9	
性・年齢別													
男性20～29歳(n=55)	76.4	60.0	47.3	56.4	60.0	49.1	43.6	30.9	20.0	1.8	3.6	0.0	
30～39歳(n=108)	67.6	54.6	35.2	53.7	51.9	52.8	36.1	22.2	13.0	1.9	3.7	0.0	
40～49歳(n=116)	67.2	47.4	30.2	50.9	43.1	36.2	40.5	25.9	8.6	0.9	1.7	3.4	
50～59歳(n=123)	71.5	53.7	35.0	42.3	38.2	36.6	38.2	32.5	7.3	0.8	0.8	3.3	
60～69歳(n=214)	70.1	41.1	29.0	46.7	42.5	30.8	41.1	28.5	10.3	1.4	2.3	5.1	
70歳以上(n=181)	72.9	39.2	23.2	46.4	40.9	27.1	31.5	20.4	12.2	0.0	6.6	11.0	
女性20～29歳(n=76)	86.8	72.4	56.6	75.0	81.6	65.8	55.3	30.3	19.7	2.6	0.0	1.3	
30～39歳(n=166)	83.1	61.4	43.4	69.9	60.8	50.0	54.2	36.1	9.6	2.4	0.6	0.6	
40～49歳(n=172)	80.2	53.5	34.9	65.1	45.9	46.5	52.3	40.1	13.4	1.7	0.6	1.2	
50～59歳(n=144)	80.6	57.6	35.4	59.7	50.0	45.1	45.8	38.9	16.0	0.7	0.7	6.3	
60～69歳(n=233)	77.7	45.9	18.9	49.8	39.9	31.8	37.3	31.8	9.4	0.4	2.1	4.3	
70歳以上(n=165)	70.3	38.8	20.0	37.6	38.8	23.6	33.9	30.9	13.3	0.0	4.2	13.9	
職業別													
自営業、経営者、役員(n=242)	74.8	42.6	28.1	52.9	40.9	29.3	36.8	30.2	8.3	2.1	2.9	6.2	
公務員、教員(n=59)	72.9	52.5	37.3	62.7	55.9	42.4	57.6	40.7	11.9	5.1	1.7	1.7	
民間企業・団体(100人未満)(n=180)	73.3	53.9	41.7	51.1	50.0	42.8	48.3	33.3	14.4	0.0	2.2	3.3	
民間企業・団体(100人以上)(n=230)	70.0	54.3	35.7	53.9	46.5	43.0	42.2	25.7	10.4	1.7	0.9	2.2	
臨時雇、パート、派遣(n=264)	79.9	53.4	35.2	61.7	52.3	45.1	49.2	36.7	13.3	0.8	0.0	2.3	
その他の有業者(n=20)	75.0	55.0	35.0	60.0	55.0	50.0	40.0	30.0	15.0	0.0	0.0	5.0	
家事専業(n=366)	80.9	53.8	26.8	57.4	49.7	41.5	39.6	34.7	11.7	1.1	2.2	4.1	
学生、無職(n=374)	71.9	43.9	26.7	42.8	41.7	31.0	36.9	24.1	13.1	0.0	4.5	8.6	
その他(n=21)	71.4	47.6	33.3	42.9	57.1	52.4	38.1	38.1	9.5	4.8	0.0	9.5	
未既婚別													
既婚(n=1309)	77.4	50.7	29.8	54.0	47.0	38.2	42.0	31.0	10.6	1.1	2.1	3.6	
離死別(n=199)	62.8	42.7	27.6	43.2	36.7	28.6	36.7	27.1	13.1	0.5	3.5	14.6	
未婚者(n=218)	73.4	50.5	39.9	56.4	54.1	48.6	45.9	33.9	17.9	1.4	2.8	3.7	

《性別》でみると、各項目で女性が男性を上回っている。

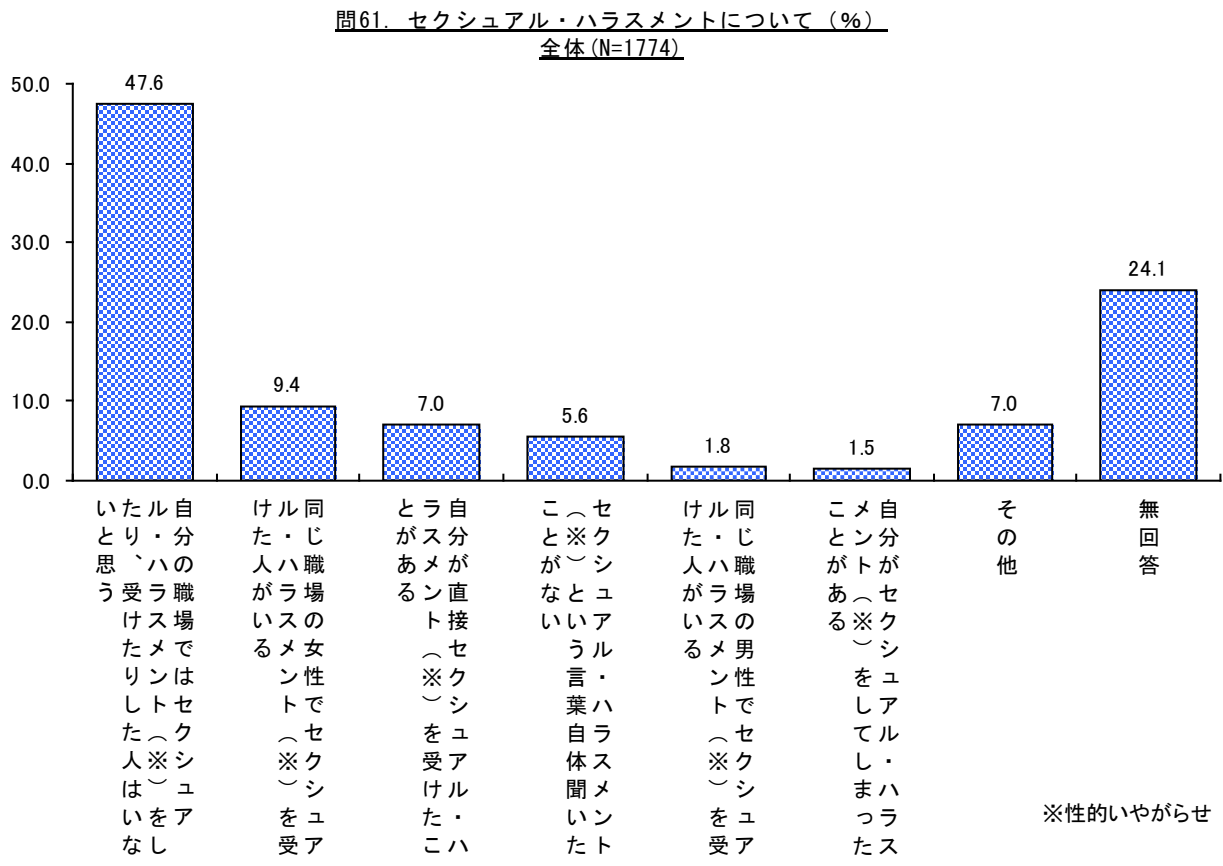
《性・年齢別》では、男性20歳代で「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」、女性20歳代で「育児・介護休業制度を定着させる」「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」「夫の育児・介護休業を取りやすくする」が他の年齢層に比べ多くなっている。

《職業別》でみると、「公務員、教員」で「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」「看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる」が他の職業に比べ多くなっている。

《未既婚別》では、「未婚者」で「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」「夫の育児・介護休業を取りやすくする」が他の層に比べ多くなっている。

18. セクシュアル・ハラスメントについて

問 61. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）について、次の中からあてはまるものを選んでください。（○印いくつでも）



セクシュアル・ハラスメントについては、「自分の職場ではセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）をしたり、受けたりした人はいないと思う」が47.6%と突出して多く、その他の項目へ回答は少ない。

【基本属性別】

問61. セクシュアル・ハラスメントについて

単位:%

		自分が 直接 性的 い や が ら せ を 受 け た こ と が あ る	自分が 直接 性的 い や が ら せ を 受 け た こ と が あ る	同じ 職場 の 男 性 で セ ク シ ュ ア ル ハ ラ ス メ ン ト を 受 け た 人 が い る	同じ 職場 の 女 性 で セ ク シ ュ ア ル ハ ラ ス メ ン ト を 受 け た 人 が い る	自分の 職場 で セ ク シ ュ ア ル ハ ラ ス メ ン ト を 受 け た 人 が い る	自分の 職場 で セ ク シ ュ ア ル ハ ラ ス メ ン ト を 受 け た こ と が あ る	その他	無 回 答	
全体(N=1774)		7.0	1.5	1.8	9.4	47.6	5.6	7.0	24.1	
性別	男性(n=799)	1.0	3.3	1.8	9.8	52.4	5.0	7.3	22.4	
	女性(n=962)	11.9	0.1	1.9	9.1	44.0	6.0	6.9	25.2	
性・年齢別	男性20～29歳(n=55)	1.8	3.6	3.6	10.9	72.7	0.0	1.8	16.4	
	30～39歳(n=108)	1.9	2.8	0.0	16.7	66.7	0.0	8.3	4.6	
	40～49歳(n=116)	1.7	1.7	2.6	18.1	64.7	0.9	1.7	13.8	
	50～59歳(n=123)	1.6	6.5	1.6	9.8	65.0	2.4	3.3	12.2	
	60～69歳(n=214)	0.0	3.7	1.4	4.2	49.1	7.0	9.3	26.6	
	70歳以上(n=181)	0.0	1.7	2.2	6.6	25.4	11.6	12.2	42.5	
	女性20～29歳(n=76)	23.7	0.0	0.0	22.4	47.4	1.3	6.6	6.6	
	30～39歳(n=166)	22.3	0.6	1.8	9.0	59.0	2.4	4.2	7.2	
	40～49歳(n=172)	16.9	0.0	2.9	14.0	54.1	2.3	7.6	10.5	
	50～59歳(n=144)	8.3	0.0	0.0	8.3	52.1	1.4	6.9	26.4	
	60～69歳(n=233)	6.0	0.0	3.0	6.4	39.1	8.2	7.3	34.3	
	70歳以上(n=165)	2.4	0.0	1.8	3.0	16.4	16.4	8.5	52.7	
	職業別	自営業、経営者、役員 (n=242)	4.5	2.5	3.7	6.6	51.2	7.0	4.5	25.2
		公務員、教員(n=59)	3.4	0.0	0.0	18.6	62.7	1.7	8.5	5.1
民間企業・団体(100人 未満)(n=180)		5.0	1.7	1.1	10.0	66.7	2.8	5.6	10.0	
民間企業・団体(100人 以上)(n=230)		4.8	3.9	1.3	18.7	61.3	0.9	4.8	10.0	
臨時雇、パート、派遣 (n=264)		11.7	0.8	2.7	8.3	62.1	2.3	3.0	15.5	
その他の有業者(n=20)		10.0	5.0	0.0	10.0	55.0	0.0	0.0	30.0	
家事専業(n=366)		9.6	0.0	1.6	7.1	34.2	6.8	10.1	33.3	
学生、無職(n=374)		5.3	1.6	1.3	7.5	30.5	10.7	10.4	35.3	
その他(n=21)		9.5	0.0	0.0	4.8	33.3	14.3	9.5	33.3	
未既婚別	既婚(n=1309)	5.9	1.5	1.7	8.9	49.8	5.6	7.1	22.5	
	離死別(n=199)	4.5	1.0	2.0	7.0	29.6	8.5	6.5	44.2	
	未婚者(n=218)	14.2	2.8	2.8	15.6	52.8	3.2	6.4	14.2	

《性別》で見ると、女性は男性に比べ「自分が直接セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたことがある」が多くなっている。

《性・年齢別》では、女性で若い年齢層ほど「自分が直接セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたことがある」が多い傾向がみられる。

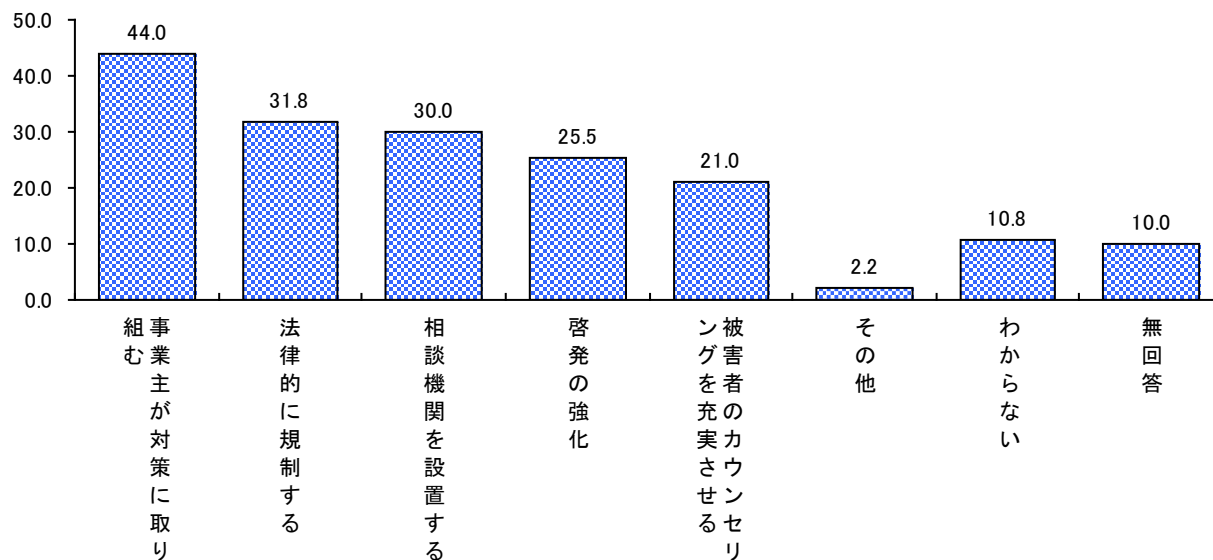
《職業別》で見ると、「民間企業・団体（100人以上）」「公務員、教員」で「同じ職場の女性でセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けた人がいる」が他の職業に比べやや多くなっている。

《未既婚別》では、「未婚者」で「自分が直接セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたことがある」「同じ職場の女性でセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けた人がいる」が他の層に比べやや多くなっている。

19. セクシュアル・ハラスメントをなくすために必要と思う対策

問 62. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）をなくすためにどのような対策が必要と考  
えますか。（〇印いくつでも）

問62. セクシュアル・ハラスメントをなくすために必要と思う対策（%）  
全体(N=1774)



セクシュアル・ハラスメントをなくすために必要と思う対策についてみると、「事業主が対策に取り組む」が44.0%と最も多く、次いで「法的に規制する」(31.8%)、「相談機関を設置する」(30.0%)、「啓発の強化」(25.5%)の順となっている。

【基本属性別】

問62. セクシュアル・ハラスメントをなくすために必要と思う対策

単位：％

	事業主が対策に取り組む	相談機関を設置する	充被害者のカウンセリングを	法的に規制する	啓発の強化	その他	わからない	無回答
全体(N=1774)	44.0	30.0	21.0	31.8	25.5	2.2	10.8	10.0
性別								
男性(n=799)	45.6	28.4	19.9	31.4	28.8	2.6	9.9	9.8
女性(n=962)	43.1	31.5	22.0	32.2	22.9	1.8	11.5	9.9
性・年齢別								
男性20～29歳(n=55)	54.5	40.0	27.3	49.1	25.5	9.1	7.3	0.0
30～39歳(n=108)	52.8	30.6	21.3	38.0	28.7	3.7	8.3	3.7
40～49歳(n=116)	50.0	31.0	25.0	35.3	27.6	3.4	6.9	5.2
50～59歳(n=123)	50.4	30.1	20.3	30.1	29.3	4.1	8.1	5.7
60～69歳(n=214)	45.3	25.2	19.2	24.3	29.4	0.9	10.7	13.1
70歳以上(n=181)	32.6	24.9	14.4	29.3	29.8	0.6	13.8	17.7
女性20～29歳(n=76)	67.1	40.8	36.8	39.5	26.3	5.3	6.6	1.3
30～39歳(n=166)	54.2	34.3	24.7	46.4	30.1	3.6	3.6	1.2
40～49歳(n=172)	51.2	30.8	23.3	30.8	23.3	1.7	11.6	2.3
50～59歳(n=144)	47.9	38.9	22.9	32.6	28.5	2.1	11.1	8.3
60～69歳(n=233)	33.0	25.8	19.3	30.5	22.3	0.0	13.7	12.0
70歳以上(n=165)	23.6	26.1	13.9	18.8	9.1	0.6	19.4	27.9
職業別								
自営業、経営者、役員(n=242)	40.5	24.8	19.0	28.9	21.5	3.7	13.6	11.6
公務員、教員(n=59)	49.2	50.8	32.2	40.7	35.6	5.1	3.4	1.7
民間企業・団体(100人未満)(n=180)	47.2	29.4	25.6	35.0	22.8	1.7	11.1	3.9
民間企業・団体(100人以上)(n=230)	55.7	30.4	20.9	33.5	32.2	2.2	4.8	3.9
臨時雇、パート、派遣(n=264)	50.0	32.6	22.0	33.7	23.9	2.7	7.2	6.1
その他の有業者(n=20)	25.0	30.0	15.0	25.0	50.0	5.0	5.0	25.0
家事専業(n=366)	38.5	30.6	21.3	34.2	23.5	1.6	13.4	12.0
学生、無職(n=374)	40.4	28.9	18.7	27.0	25.7	0.8	13.6	14.7
その他(n=21)	42.9	23.8	14.3	33.3	19.0	9.5	14.3	19.0
未既婚別								
既婚(n=1309)	44.1	30.7	20.6	32.4	26.7	1.9	10.9	8.3
離死別(n=199)	29.6	22.1	15.6	23.6	15.1	1.5	14.6	23.6
未婚者(n=218)	55.0	34.4	26.6	36.2	28.0	5.0	7.8	6.4

《性別》での大きな差はみられないが、《性・年齢別》では、男性 20 歳代で「法的に規制する」、女性 20 歳代で「事業主が対策に取り組む」「被害者のカウンセリングを充実させる」が他の年齢層に比べ多くなっている。

《職業別》でみると、「公務員、教員」で「相談機関を設置する」「被害者のカウンセリングを充実させる」、「その他の有業者」で「啓発の強化」が他の職業に比べ多くなっている。

《未既婚別》では、「未婚者」で「事業主が対策に取り組む」が他の層に比べ多くなっている。